

淀川水系
甲賀・湖南圏域河川整備計画
(変更原案)
計画概要説明資料

令和5年3月
滋 賀 県

目 次

1. 圏域、河川の概要	1
1.1 甲賀・湖南圏域の概要	1
1.2 河川の現状と課題	16
2. 河川整備計画の目標に関する事項	49
2.1 計画対象期間、計画対象河川.....	49
2.2 計画の目標	51
2.3 整備実施区間・調査検討区間・整備時期検討区間	61
3. 河川整備の実施に関する事項	63
3.1 河川工事の目的、種類および施工場所.....	63
3.2 河川の維持の目的、種類および施工場所	80
3.3 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項.....	82
4. 超過洪水時の被害を最小化するために必要な事項	84
4.1 平常時における関係機関の連携	84
4.2 洪水時の連携の強化	84
4.3 水防、避難体制の強化	85
4.4 水害に強いまちづくり	86
4.5 地域防災力の向上	86
4.6 超過洪水時の減災に効果のある河川管理施設の整備・保全	86
5. 附則資料（甲賀・湖南圏域位置図）	87

1. 圏域、河川の概要

1.1 甲賀・湖南圏域の概要

甲賀・湖南圏域^(注1)は、滋賀県南東部の琵琶湖岸から野洲川上流域に位置し、草津市、守山市、栗東市、野洲市(日野川流域を除く)、大津市(草津川上流部の一部)、甲賀市(一次信楽川、河合川および大戸川流域を除く)、湖南市(日野川流域を除く)の7市の淀川水系に属する一級河川(琵琶湖を含む)およびその流域を対象とします。圏域面積は約629km²となります。

圏域には、草津市、守山市、野洲市において琵琶湖へ直接流入する一級河川が16河川(国が管理している野洲川を含む)あります。

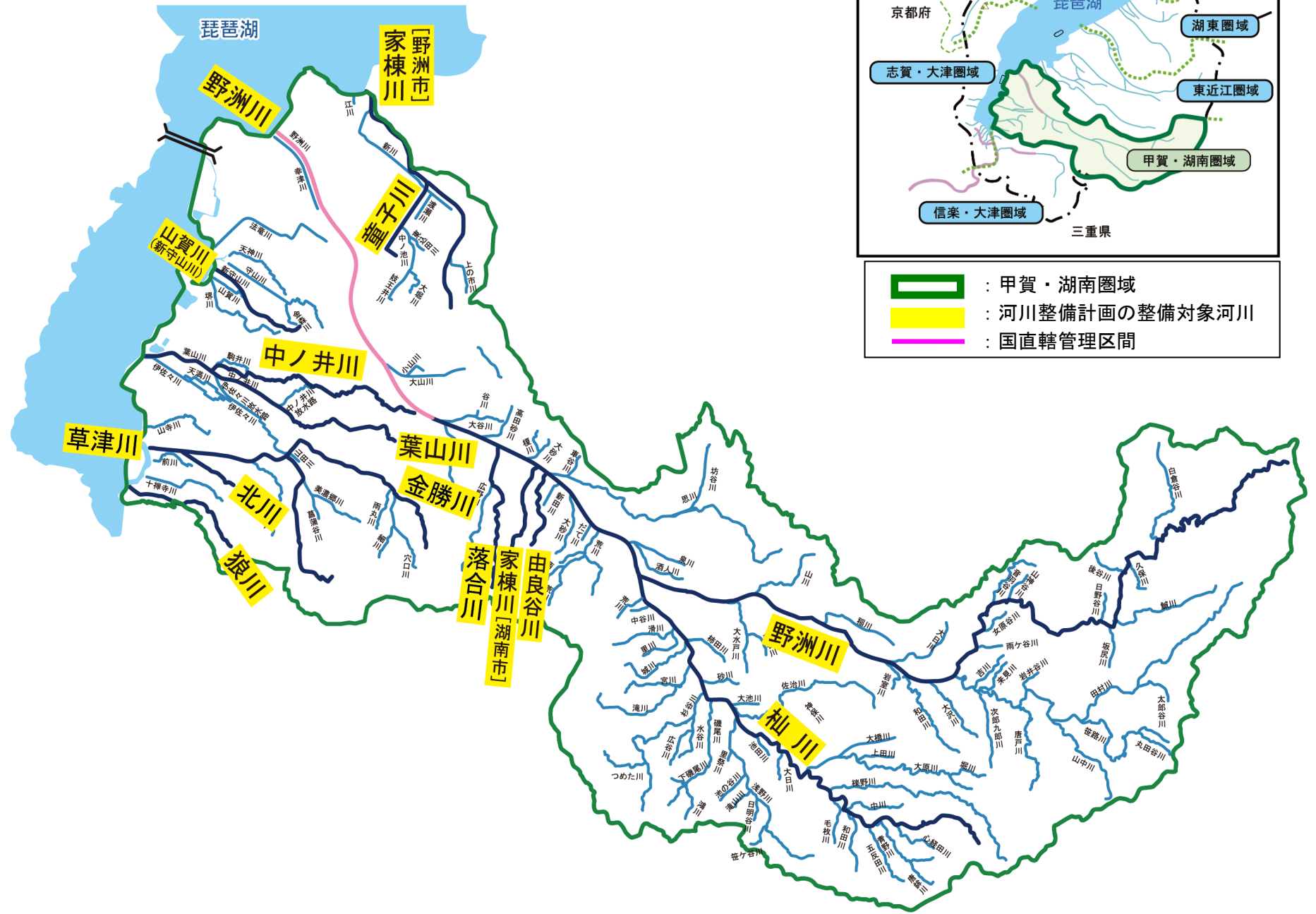
主要な河川としては、北から家棟川〔野洲市〕^(注2)、野洲川、山賀川(新守山川)、葉山川、草津川、十禅寺川、狼川等があります。

野洲川(指定区間)流域を構成する河川は、甲賀市と三重県の境に位置する御在所山(標高1,212m)、鎌ヶ岳(標高1,161m)、仙ヶ岳(標高961m)、三子岳(標高556m)、高畑山(標高773.3m)等に源を發し、山間部のV字谷を流下して野洲川に合流し、名神高速道路下流の栗東市から守山市付近に扇状地、湖岸に三角州を形成しています。また、当圏域の沖積地帯を流れる川は、葉山川、草津川、狼川、家棟川〔湖南市〕^(注2)に代表されるように河床が周辺地盤高よりも高いところを流れる天井川と、その間に下流になるにつれて流路が分派していく用排水路河川(いわゆる尻無川)等で構成されています。

(注1)甲賀圏域の自治体：甲賀市、湖南市

湖南圏域の自治体：草津市、守山市、栗東市、野洲市、大津市

(注2)家棟川の表記方法について、野洲市を流れる川を「家棟川〔野洲市〕」、湖南市を流れる川を「家棟川〔湖南市〕」とする。



甲賀・湖南圏域河川概要図

河川表

水系	淀川											
	第1次 支川名	第2次 支川名	第3次 支川名	第4次 支川名	第5次 支川名	第6次 支川名	第1次 支川名	第2次 支川名	第3次 支川名	第4次 支川名	第5次 支川名	第6次 支川名
琵琶湖	狼川						琵琶湖			佐治川	神保川	
	十禅寺川									浅野川	里祭川	
	前川										池の谷川	
	山寺川										滝山川	
	草津川	北川									日明川	
		伯母川									笹ヶ谷川	
		金勝川	山田川							池田川		
			雨丸川							大日川		
			細川	穴口川						大原川	大橋川	
		美濃郷川	葛蒲谷川								上田川	
	伊佐々川	天満川									堀川	
	葉山川	中ノ井川	駒井川							糠野川		
			淵ヶ上川	石原川						毛枚川		
			百々川							中川		
		伊佐々川放水路								和田川		
	堺川									五反田川		
	山賀川									青野川	唐鋒川	
	守山川	金森川								心経田川		
	天神川									稗谷川		
	法竜川									山川		
	幸津川									稲川		
	野洲川	大山川	小山川							岩室川		
		宮川								大日川		
		大谷川	谷川							和田川		
		高田砂川								大沢川		
		落合川	広野川							田村川	吉川	
		大砂川									来見川	
		家棟川〔湖南市〕	由良谷川								次郎九郎川	
		思川	車谷川								唐戸川	
			坊谷川								岩井谷川	
											山中川	
		新田川									笹路川	丸田谷川
		大砂川									太郎谷川	
		だて川								雨ヶ谷川		
		荒川	西山川								女原谷	
			荒川西流								音羽谷川	
		泉川	酒人川								山神谷川	
		杣川	荒川								日ノ谷川	
			中谷川								坂尻川	
			滑川								鹹川	
			里川								久保川	
			柿田川								後谷川	
			城川								白倉谷川	
			滝川	宮川				江川				
			砂川					家棟川〔野洲市〕	新川	渡瀬川		
			杉谷川	水谷川					童子川	中ノ池川	東込谷川	
				広谷川							妓王井川	
				つめた川							大堀川	
			磯尾川	下磯尾川	鴻川					上の市川		
			大池川				1	16	44	49	21	1
											合計	132

甲賀・湖南圏域河川概要図

河川整備計画（本文）

（地形・地質）

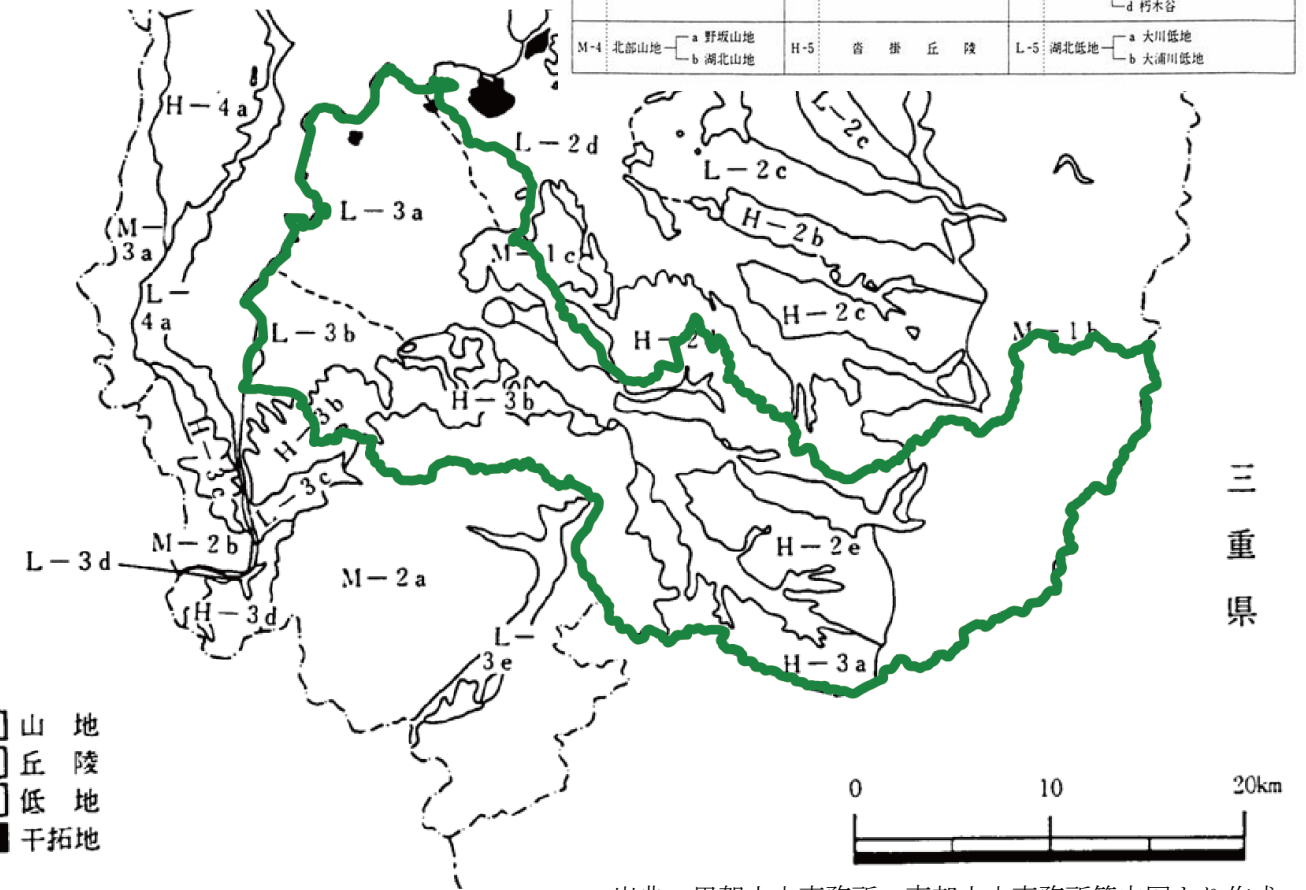
滋賀県の地形は琵琶湖を中心として周囲を北に野坂山地、東に伊吹山地、鈴鹿山脈が、西に比良山地、南に甲賀山地が取り囲み、全体として盆地地形を形成しています。琵琶湖の東方、南東側は、県内で最も広く丘陵・扇状地三角州等の低平地が分布しています。一方、琵琶湖の北方、西方は、一般的に低平地の発達が乏しく、急峻な山地が琵琶湖に迫っています。

甲賀圏域の地形は、東部の山々から中央北部の水口丘陵南沿いの谷を野洲川が、南部甲賀丘陵沿いの河谷をそまがわ杣川が流れ、川筋に沿う形で平地が開けており、東端は鈴鹿山脈南嶺が北東から南西方向に走っています。

湖南圏域の地形は、圏域の中央部に野洲川が流れており、その扇状地を家棟川〔野洲市〕、山賀川（新守山川）が流れ、それぞれ琵琶湖に注ぎます。また、南部の山々に端を発するこんぜがわ金勝川、草津川、葉山川等が圏域南部の沖積地帯を流れ、多くは天井川となり琵琶湖に注ぎます。

出典・根拠

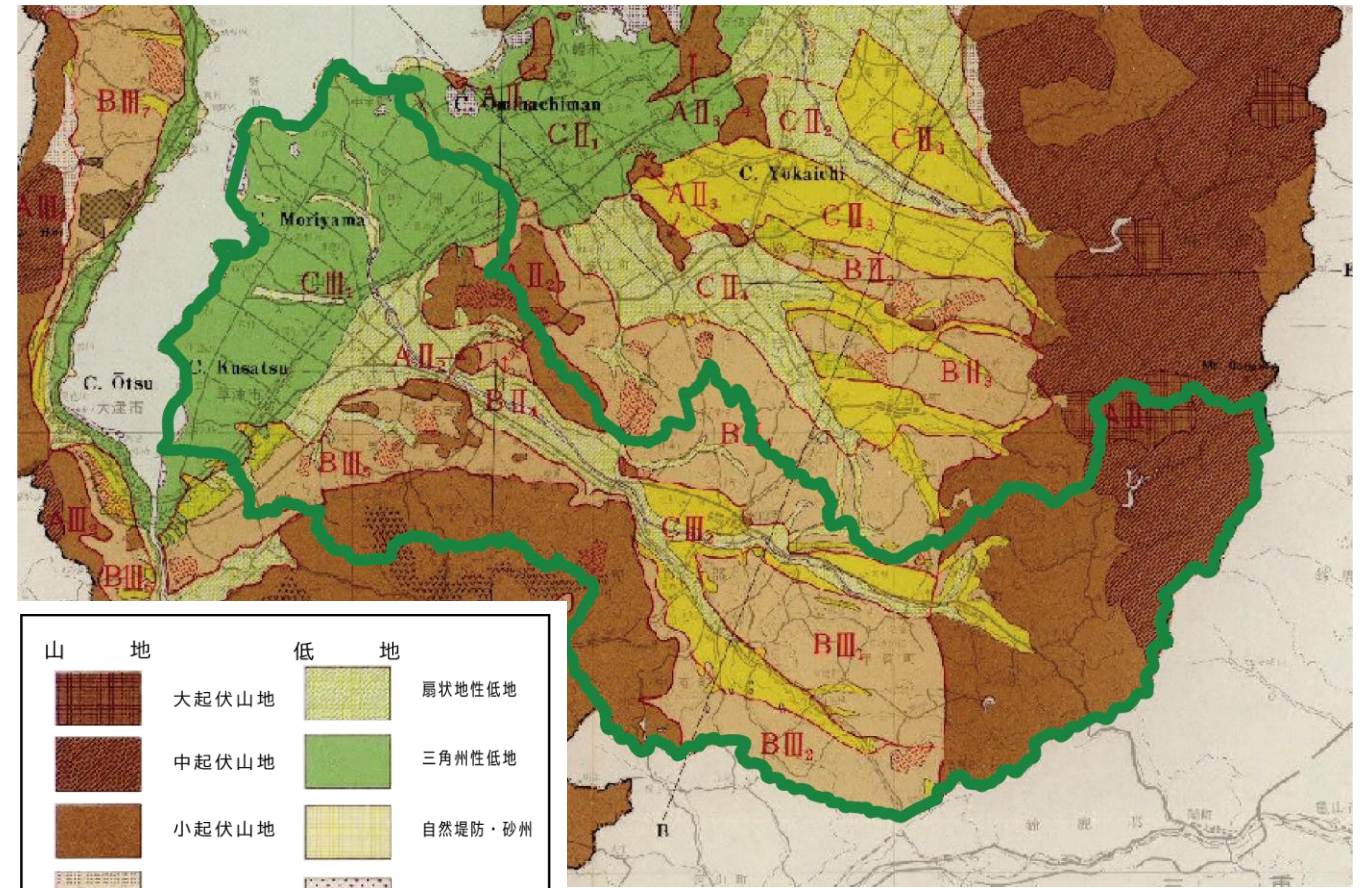
M	山 地	H	丘 陵 と 台 地	L	低 地
M-1	東部山地 a 伊吹山地 a' 山東山地 b 鈴鹿山脈 c 湖東島状山地	H-1 伊吹山麓丘陵 H-2 鈴鹿山麓丘陵 a 多賀丘陵 b 八日市丘陵 c 日野丘陵 d 水口丘陵 e 甲賀丘陵	L-1 湖北低地 a 余呉川低地 b 高時川低地 c 姉川低地 d 天野川低地 e 山東盆地 L-2 湖東低地 a 芥川、大上川低地 b 愛知川低地 c 八日市隆起扇状地 d 日野川低地		
M-2	南部山地 a 田上信楽山地 b 醍醐山地	H-3 信楽山麓丘陵 a 甲南丘陵 b 瀬田・栗東丘陵 c 膳所・石山丘陵 d 郷之口丘陵	L-3 湖南低地 a 野洲川低地 b 草津川低地 c 大戸川低地 d 大石盆地 e 信楽盆地		
M-3	西部山地 a 比叡山地 b 比良山地 c 朽木山地（丹波山地）	H-4 比叡比良山麓丘陵 a 堅田丘陵 b 泰山寺野台地 c 養庭野台地	L-4 湖西低地 a 北天津低地 b 比良山麓複合扇状地 c 高島低地 d 朽木谷 e 鴨川低地 f 安曇川低地 g 石田川低地 h 百瀬川低地 i 知内川低地		
M-4	北部山地 a 野坂山地 b 湖北山地	H-5 雷掛丘陵	L-5 湖北低地 a 大川低地 b 大浦川低地		



出典：甲賀土木事務所、南部土木事務所管内図より作成

滋賀県地形区分図

出典：滋賀県の自然／（財）滋賀県自然保護財団(1979)



山地		低地	
	大起伏山地		扇状地性低地
	中起伏山地		三角州性低地
	小起伏山地		自然堤防・砂州
	山麓地		埋立地
丘陵地			干拓地
	大起伏丘陵地	付加記号	
	小起伏丘陵地		人工改变地
台地・段丘地			悪地地形
	砂礫台地・段丘(上位)		
	砂礫台地・段丘(下位)		

地形分類図

出典：国土交通省 HP

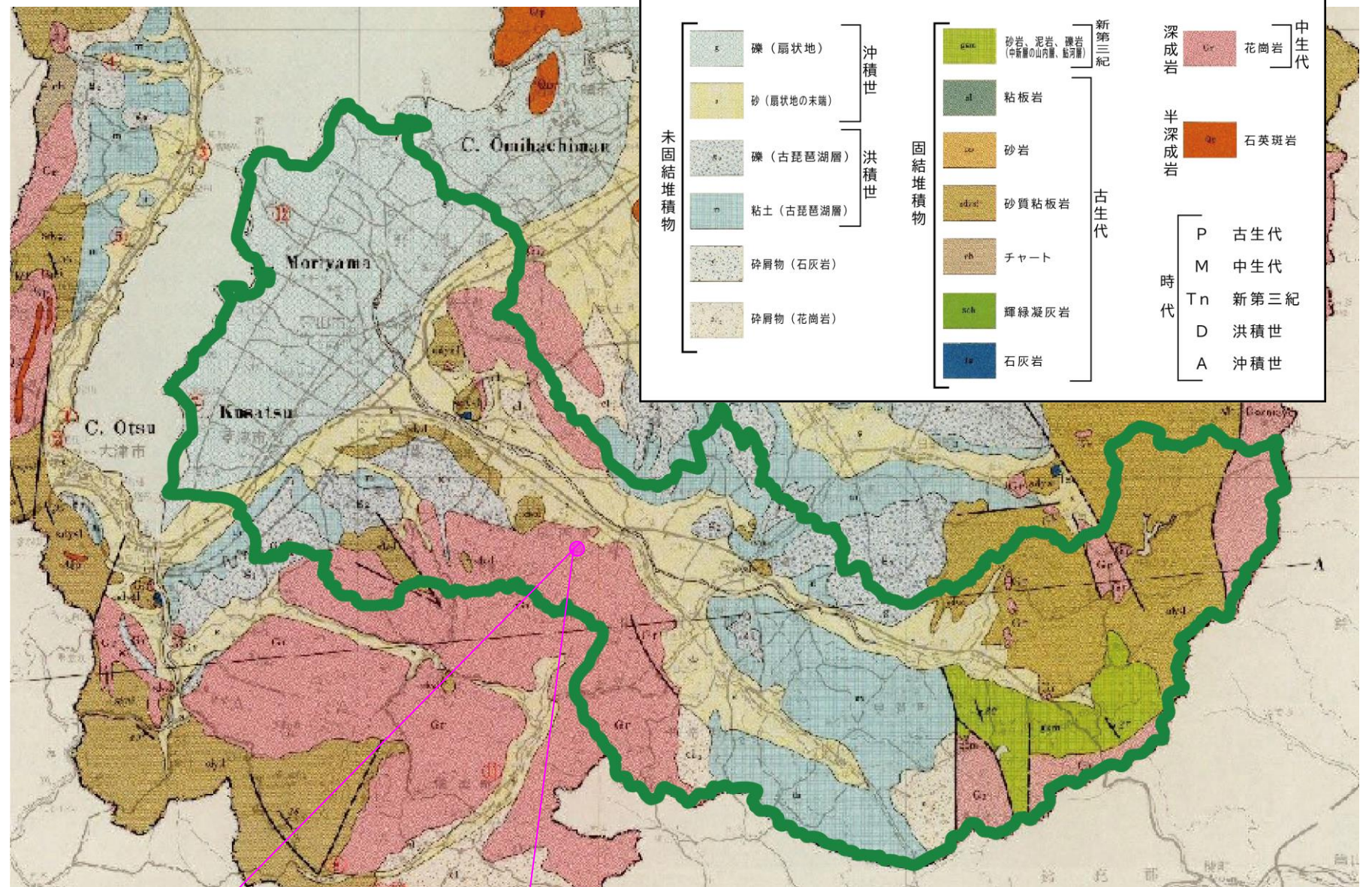
河川整備計画（本文）

出典・根拠

滋賀県の地盤をなしている岩石・地層は、

- ① おもに古生代ペルム紀(2億9500万年前～2億4500万年前)に形成された石灰岩・緑色岩等
- ② おもに中生代三畳紀からジュラ紀(2億4500万年前～1億3500万年前)に形成された頁岩・チャート等
- ③ 中生代白亜紀から新生代古第三紀初期(1億3500万年前～5700万年前)に形成された花崗岩等の深成岩類、石英斑岩等の半深成岩類、溶結凝灰岩等の火山岩類
- ④ ③の形成に関わるマグマの活動に伴って形成された接触変成岩類
- ⑤ 新生代新第三紀中新世(約1600万年前)に形成された鮎河層群の礫岩・砂岩・泥岩等
- ⑥ 新生代新第三紀鮮新世から第四紀更新世(360万年前～30万年前)に形成された古琵琶湖層群の礫・砂・泥等からなる地層
- ⑦ 新生代第四紀更新世後期から完新世(30万年前～現在)に形成された段丘堆積物・沖積層等に大別することができます。

圏域の地質の分布を見ると、下流部の平野と中流部の河川沿いの低地には、沖積層が広がっています。中流部の湖南市一帯の山地はおもに花崗岩類から、上流部の甲賀市東部の山地は中・古生層、花崗岩類、鮎河層群の地層から形成されています。また、中流部の湖南市と甲賀市中・西部の丘陵は、おもに古琵琶湖層群のやや軟弱な地層からできています。花崗岩地帯は風化が著しく、侵食によって多量の砂礫を流出させています。また、古琵琶湖層群も侵食されやすく、泥砂の流出の激しい地帯となっています。



土地分類図（表層地質図）

出典：国土交通省 HP



野洲川の古琵琶湖層（甲西中央橋上流 左岸）

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（気候）

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、日本海型気候区（北陸地方）、瀬戸内海型気候区、東日本型気候区（東海地方）が接した位置にあり、また、周囲を高い山々で囲まれています。このため、滋賀県の気候は、温暖な東日本・瀬戸内型と冬季に雪による降水量が多い日本海・中部山岳型の気候を相備えながら、琵琶湖の気候調節作用にも大きな影響を受けるため、県全体を一気候で特色付けられません。

甲賀圏域の気候は、温暖少雨の瀬戸内式の特徴を持っていますが、山地部に近づくにつれて準内陸的な気候になる特徴を持っています。近年 10 年間の平均気温は圏域上流部の土山気象観測所においては約 14.0℃です。

湖南圏域の気候は比較的温暖な瀬戸内気候で、近年 10 年間の平均気温は、琵琶湖岸の天津気象観測所において約 15.6℃と甲賀圏域より 1.6℃程度高くなっています。

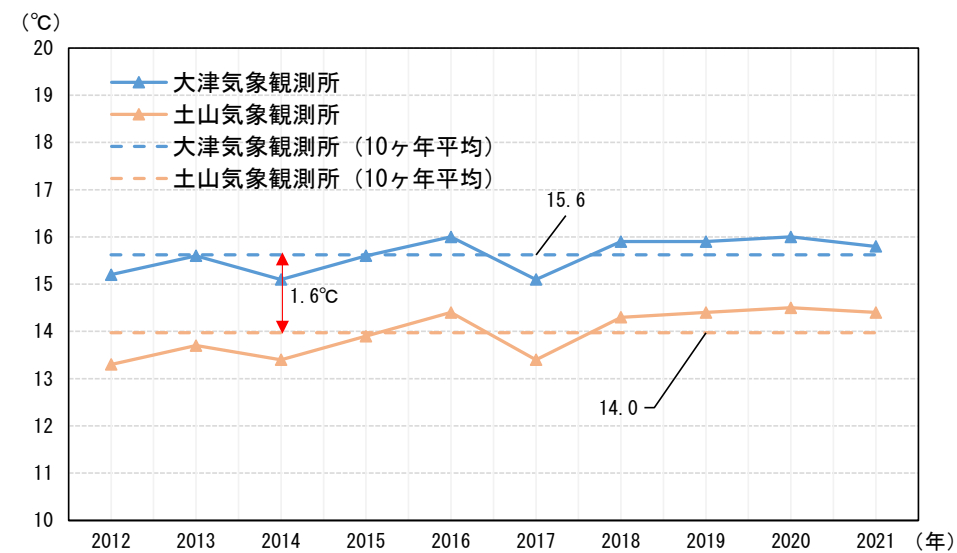
近年 10 年間の年降水量は、圏域下流部の草津雨量観測所、圏域中流部の水口雨量観測所において約 1,400～1,500mm、それに対して圏域上流部の大河原雨量観測所においては約 2,100mm と、圏域中・下流部の 1.4 倍程度となっています。圏域上流部は「坂は照る照る 鈴鹿は曇る あいの土山 雨が降る」と鈴鹿馬子唄でうたわれているように、降水量の多い地域です。



観測所位置図

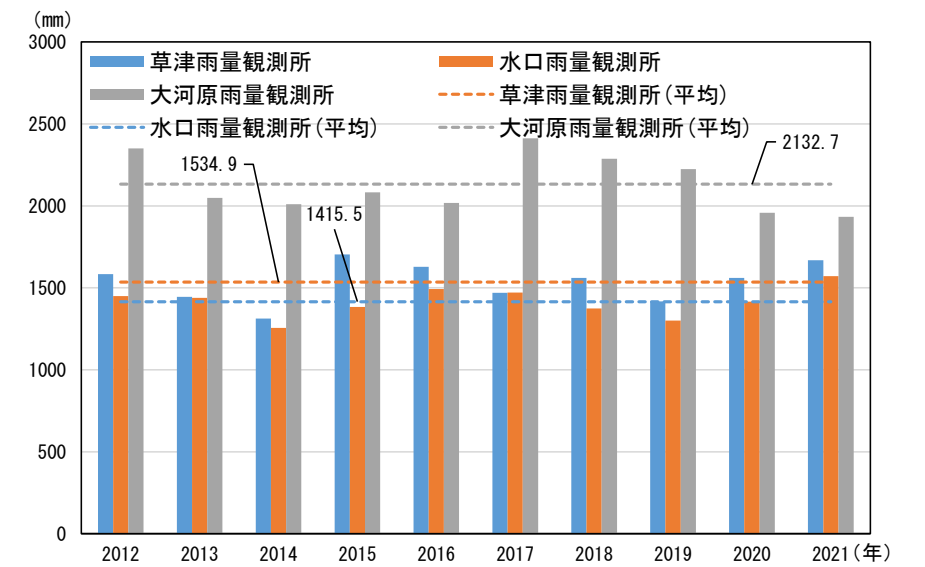
出典：気象庁ホームページ

近年 10 年間の年平均気温



出典：滋賀県 土木防災情報システム

近年 10 年間の年間降水量



出典：滋賀県 土木防災情報システム

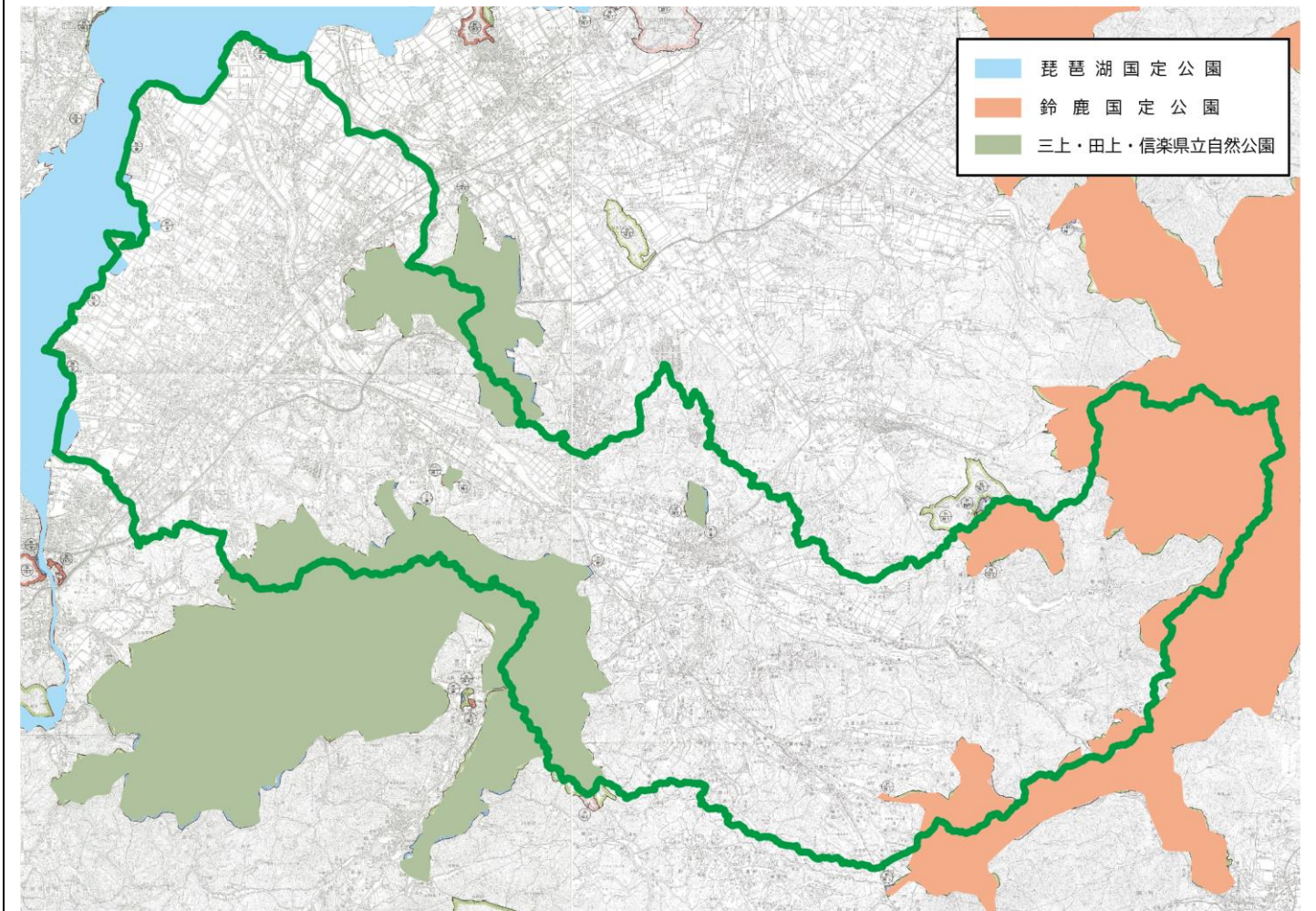
注) 欠測期間を含むデータとなっています。

河川整備計画（本文）

（自然・景観）

自然や景観について見ると、琵琶湖が昭和 25 年に我が国で初めての国立公園として「琵琶湖国立公園」に指定され、豊かな自然と生物の宝庫となっています。滋賀県と三重県の境を南北に走る延長約 50 km、幅約 10 km の鈴鹿山脈一帯は、昭和 43 年に「鈴鹿国立公園」に指定され、特別天然記念物のニホンカモシカ等多くの鳥獣が生息しています。また、圏域中央部に点在する「三上・田上・信楽県立公園」は昭和 44 年に指定されています。このあたりの地質は大部分が花崗岩からなっており、特に風化浸食の激しい田上山地は、地形が変化に富み、湖南アルプスの名で親しまれています。

出典・根拠



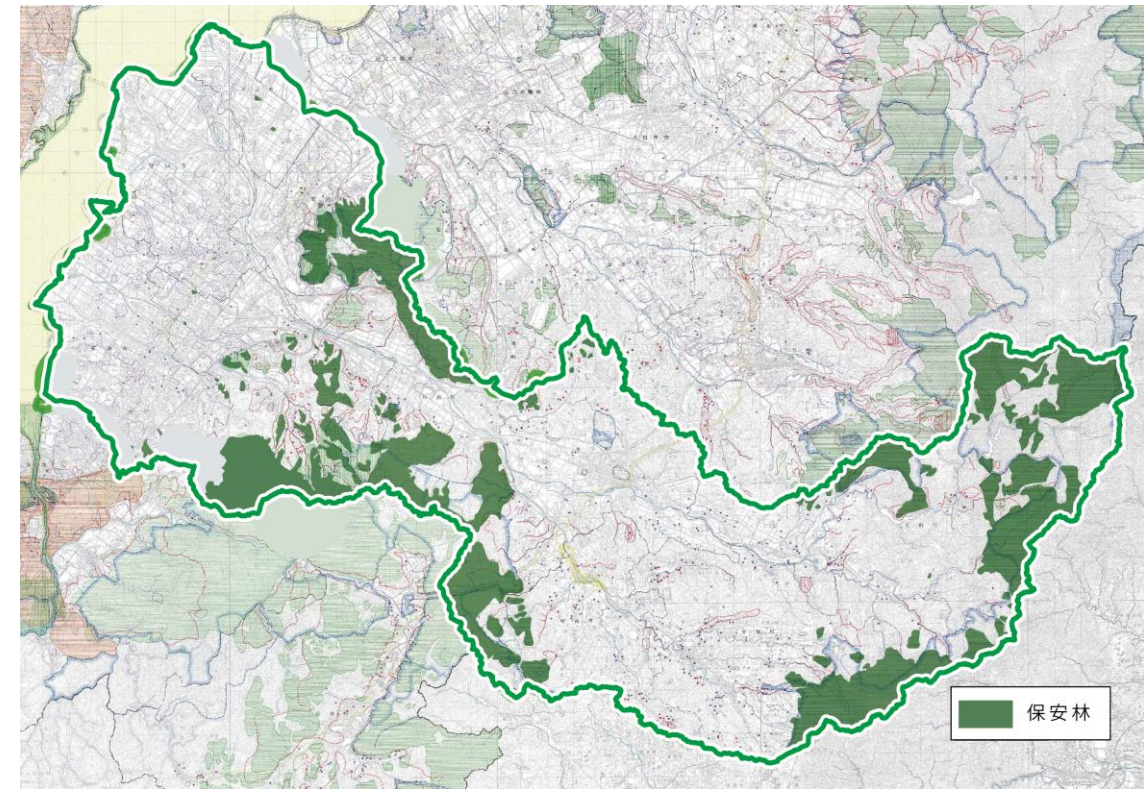
自然公園位置図

出典：滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 HP

河川整備計画（本文）

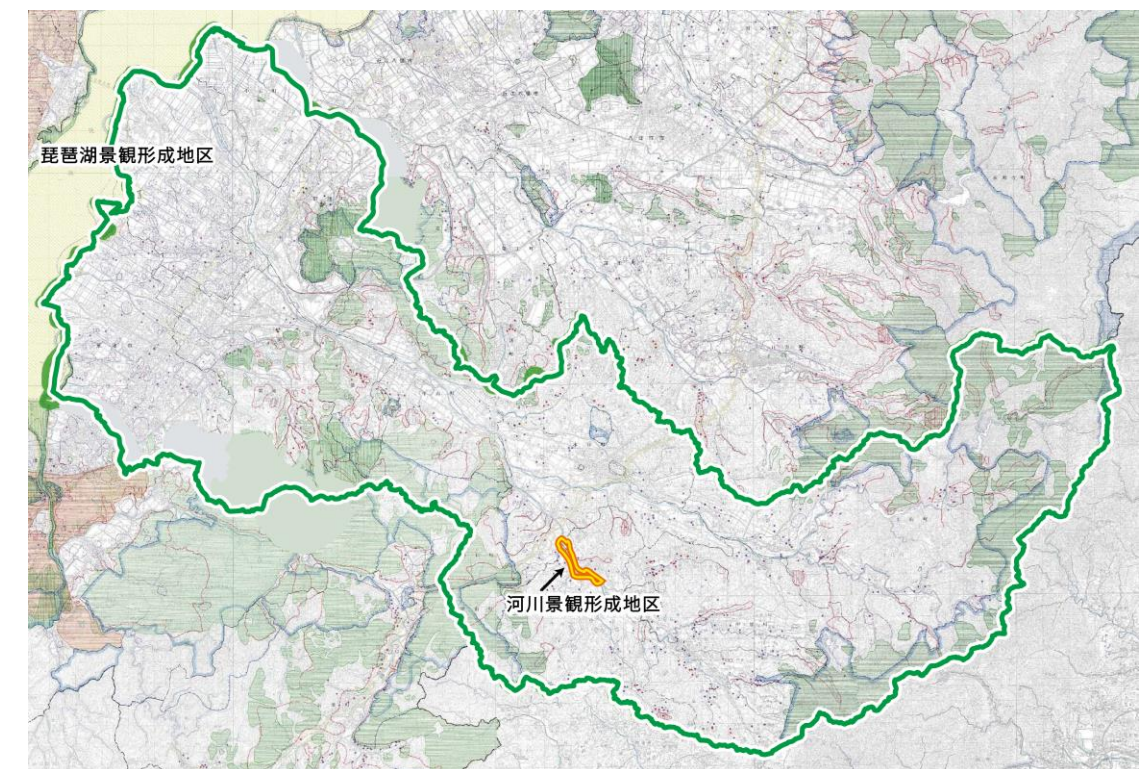
その他にも、森林法に基づく保安林が幅広く指定されています。また、各市の景観条例に基づき、琵琶湖岸は琵琶湖景観形成地域等に、杣川の甲賀市甲南町森尻にかかる杣川大橋から同町野田にかかる野田橋までの区間は河川景観形成地区に指定されています。

出典・根拠



保安林位置図

出典：滋賀県土地利用基本計画図（滋賀県、平成11年）



景観形成図

出典：土地利用（防災・保全等）現況図（滋賀県、平成8年）

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（歴史）

滋賀県は、地理的にも都として栄えた奈良・京都に近く、また、東国と西国または北陸とを結ぶ交通の要衝として、古くから歴史の表舞台に登場してきました。古代においては、大津宮や紫香楽宮が造営される等政治・文化の中心として脚光を浴びてきました。江戸時代に入ると、東海道や中山道等の主要な街道に沿って宿場町が栄えました。なかでも当圏域では、土山、水口、石部、草津、守山等の宿場町を中心に街道沿いに産業や文化が栄えました。

（文化財）

滋賀県は、美しい自然と、それぞれの時代が代表する豊かな歴史文化資産に恵まれ、国宝や文化財の数は、全国でも有数を誇っています。圏域の文化財は、国指定が260件、県指定が126件あります。

なかでも著名なものに、常楽寺三重塔(国宝・湖南市)、水口城跡(県史跡・甲賀市)、大岩山古墳群(国史跡・野洲市)、草津宿本陣(国史跡・草津市)等があります。



圏域内の主な文化財

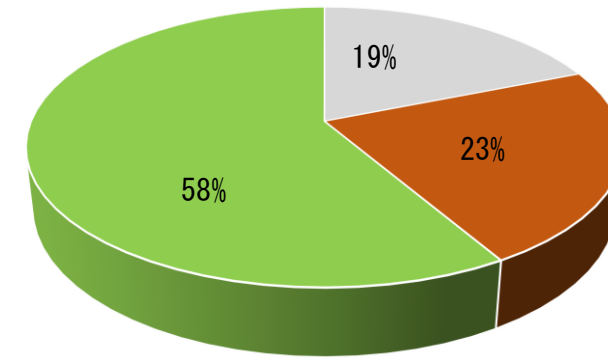
出典：滋賀県県民分化課ホームページ
 滋賀県教育委員会ホームページ

河川整備計画（本文）

出典・根拠

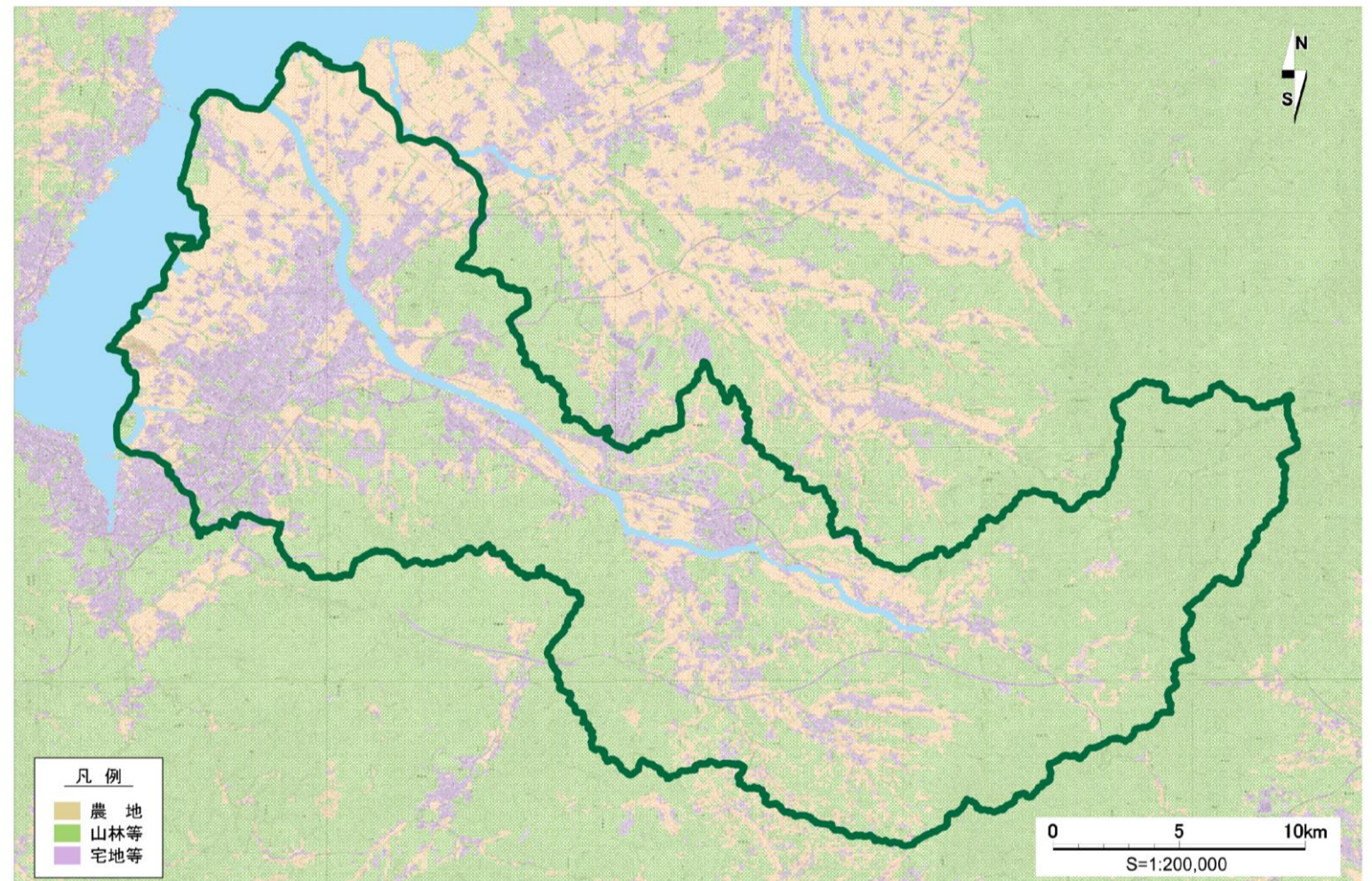
（土地利用）

令和4年度の圏域の土地利用は、山林等が約58%と最も高く、次いで農地が約23%、宅地等が約19%となっています。



■ 宅地等 ■ 農地 ■ 山林等

土地利用種別面積（令和4年）



出典：国土交通省土地利用メッシュデータ（令和4年）

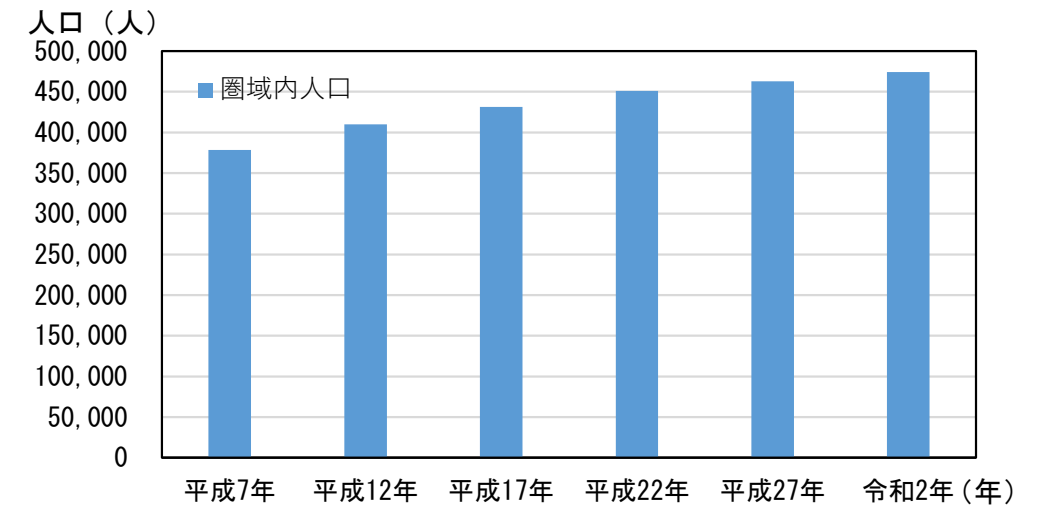
土地利用図（令和4年）

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（人口）

令和2年の圏域内の人口は、約47万人で県の約34%を占めます。圏域内の人口変動傾向は平成7年～令和2年にかけて増加傾向です。



圏域関連市の人口

出典：令和2年国勢調査

河川整備計画（本文）

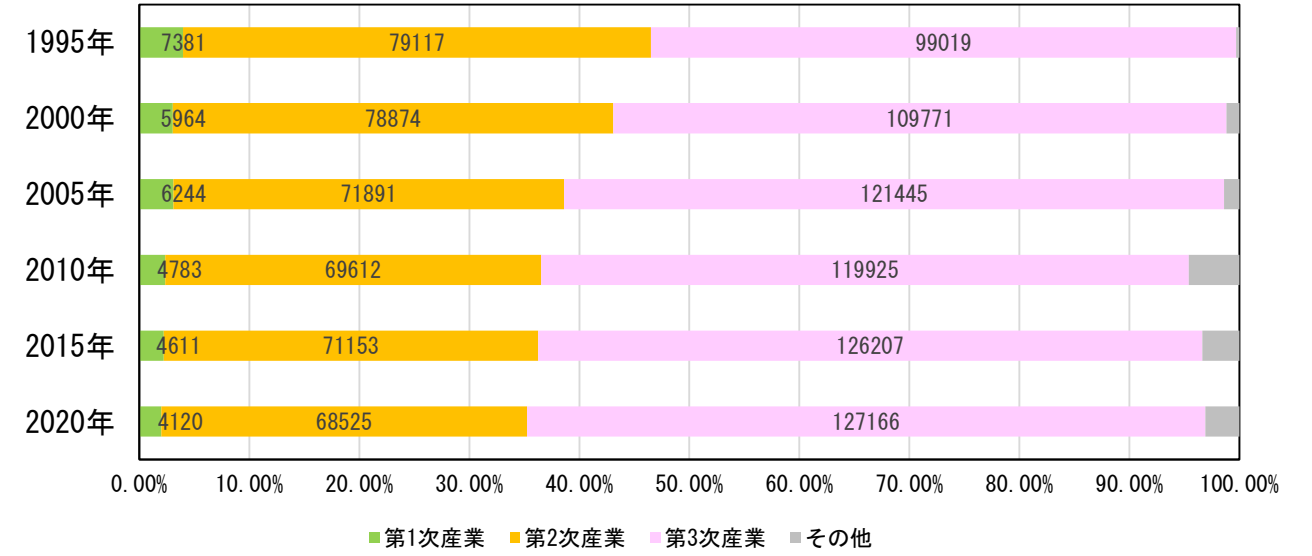
（産業）

令和2年の圏域内における産業別就業人口構成比を見ると、第1次産業就業者は約0.4万人(2.0%)、第2次産業就業者は約6.9万人(33.2%)、第3次産業就業者は約12.7万人(61.7%)であり、その他分類できない産業が約0.6万人(3.1%)となっており、第3次産業の割合が高くなっています。

産業大分類別に見ると「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の就業者が特に多くなっています。

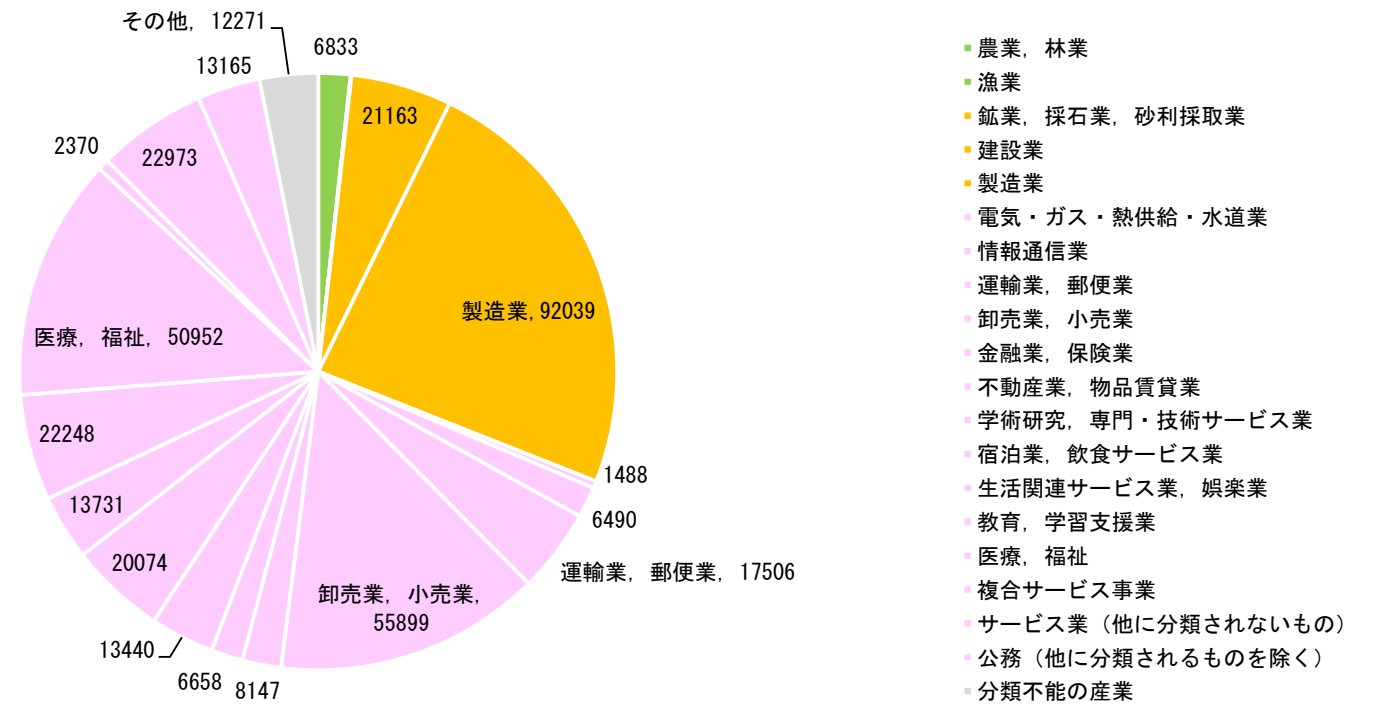
出典・根拠

圏域内の産業別人口



出典：令和2年国勢調査

圏域内従業者の内訳



出典：令和2年国勢調査

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（交通）

圏域の交通網は、国道1号が旧東海道と並行して東西に、国道8号や名神高速道路が南北に通っています。平成20年2月には、圏域の交通事情に大きな変革をもたらす近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）が開通し、令和4年現在さらなる円滑交通確保の為、6車線化工事が進められています。鉄道は、JR東海道新幹線、JR琵琶湖線、JR草津線、近江鉄道本線、信楽高原鉄道の5路線が通っています。このように、甲賀・湖南圏域は、京阪神と名古屋・東京等を結ぶ重要な交通機関が集中しています。



主な圏域内の交通

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（農業）

圏域の平野部の水田では、稲作を基幹に麦・大豆等の土地利用型農業が営まれ、平坦地から湖辺にかけては施設野菜や花き、果樹等が栽培されています。また、丘陵地や山間の樹園地では、茶の生産が盛んで、「近江茶」の一大生産地を形成しており、県内産地の9割を占めています。

（漁業）

圏域内の漁業としては、野洲川上流や田村川では、アユ、ニジマス、アマゴ、イワナ、ウナギ、コイ、フナおよびワカサギを対象とする河川漁業が行われています。

また、琵琶湖では、湖岸から沖合に向かい矢印型に網を張り、湖岸によってきた魚の習性をうまく利用し、「つぼ」と呼ばれる部分に誘導し閉じこめて魚を獲るえり（小型定置網）漁をはじめさまざまな漁法による漁業が営まれ、アユやフナ、ホンモロコなど多様な「湖魚」が捕獲されています。

さらに、平湖、赤野井湾および木浜内湖では、イケチョウガイを用いた淡水真珠養殖業が営まれています。

単位：1,000万円

市町村	市町村コード	農業産出額 ①+②+③	耕種											畜産										加工農産物 ③
			小計 ①	米	麦類	雑穀	豆類	いも類	野菜	果実	花き	工芸 農作物	茶	その他 作物	小計 ②	肉用牛	乳用牛	生乳	豚	鶏	鶏卵	ブロイラー	その他 畜産物	
大津市	201	178	170	125	0	0	1	3	35	2	x	0	0	x	8	1	0	0	-	8	8	-	-	0
彦根市	202	282	274	201	3	0	12	1	51	3	2	-	-	1	8	-	3	x	-	5	x	-	-	-
長浜市	203	717	709	584	8	3	22	5	63	7	x	0	0	x	7	0	2	x	-	5	0	x	-	0
近江八幡市	204	859	543	304	11	1	29	0	182	1	15	0	-	1	317	222	44	41	x	38	38	-	x	-
草津市	206	250	248	97	1	-	4	7	138	1	0	-	-	0	1	0	-	-	-	1	0	x	-	-
守山市	207	245	235	127	3	-	8	2	68	4	21	0	0	1	10	3	-	-	-	7	0	x	-	0
栗東市	208	92	91	43	1	-	2	1	41	1	3	0	-	0	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-
甲賀市	209	519	404	286	1	0	5	5	54	1	x	42	42	x	100	5	72	57	-	24	24	-	-	14
野洲市	210	227	227	166	4	-	20	0	32	1	3	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
湖南市	211	86	62	45	0	-	2	1	11	0	2	0	-	0	25	24	-	-	-	1	x	-	-	-
高島市	212	642	451	348	1	1	3	6	73	11	x	1	0	x	191	139	46	42	x	6	6	-	x	0
東近江市	213	1,094	947	625	11	2	41	9	207	15	34	1	0	3	148	77	51	43	-	19	19	-	-	0
米原市	214	209	209	155	1	1	4	10	31	2	x	0	0	x	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
日野町	383	217	140	127	1	0	1	1	8	-	1	1	1	1	77	34	19	16	x	-	-	-	x	0
竜王町	384	288	144	96	1	0	6	4	27	6	3	0	0	1	144	135	5	x	-	4	x	-	-	0
愛荘町	425	144	136	104	1	-	13	1	14	0	2	0	-	0	9	2	7	x	-	-	-	-	-	-
豊郷町	441	37	35	27	1	-	1	0	4	-	x	0	-	x	3	-	3	x	-	-	-	-	-	-
甲良町	442	55	55	40	1	-	4	0	7	1	1	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
多賀町	443	42	37	27	1	2	1	0	6	0	0	-	-	0	5	0	5	x	-	-	-	-	-	-

出典：農林水産省 令和2年市町村別農業産出額

茶の産出額 = 【圏域関連市 42】 + 【それ以外市町 1】 （単位：1000万）
 98% 2%

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（林業）

圏域の上流部は豊かな森林資源を背景にして、歴史的に林業活動が盛んであった地域であり、「甲賀ヒノキ」と呼ばれる銘木の産地等が存在しています。圏域の下流部では人口流入に伴う住宅建築用の木材需要も高く、それらに応えるべく森林組合を始めとする関係団体では間伐材の有効利用や大規模な木材加工工場との連携等の取り組みを行っています。

また、森林レクリエーションの機会や体験施設も多く、登山、ハイキング等も盛んな地域で、里山を維持するための取り組み等、民間の活発な活動が行われています。

（その他の産業）

地場産業としては、甲賀武士の活躍と結びついて、薬草を使った「くすり」の製造が行われてきました。

観光資源としては、国指定天然記念物である平松のウツクシマツ自生地(湖南市)、聖徳太子が建立したといわれる油日神社(重要文化財・国史跡・甲賀市)、室町時代に岩倉城主馬淵定信が再建した大笹原神社(国宝・野洲市)、東海道五十三次の51番目の宿場町としてにぎわった石部宿場町(湖南市)52番目の宿場町としてにぎわった草津宿(草津市)、文政5年(1822)に野洲川の渡し場の目印として建てられた東海道の中で最大級の横田渡常夜燈(湖南市～甲賀市)、江戸時代に建てられた忍者屋敷と伝えられる甲賀流忍術屋敷(甲賀市)等があります。



甲賀ヒノキを使用した施設「甲賀木彩館（甲賀市甲賀町岩室）」

出典：滋賀県 HP より

1.2 河川の現状と課題

1.2.1 治水に関する現状と課題

（河川の現状）

圏域内には琵琶湖も含め一級河川が 132 河川存在します。この内、琵琶湖に直接流入する河川は 16 河川であり、その他は全てこれらの河川の支川です。

野洲川は、流域面積は 387.0km²(直轄区間を含む)、その流路延長は約 65.3km(直轄区間を含む)であり、琵琶湖に流入する河川の中では最大の河川です。野洲川は、滋賀県と三重県の県境に位置する御在所山(標高 1,212m)に源を発し、鈴鹿山脈西側の水を集めながら西に向かって流下します。途中、野洲川ダム、^{おおづち}青土ダムを経た後、田村川、杣川等が合流します。杣川が合流した後は、流路を北西に変え、荒川、思川、家棟川〔湖南市〕、落合川等が合流し、守山市にて琵琶湖に注ぎます。



②甲西大橋下流

②甲西大橋上流



①中郡橋上流

③甲西橋上流



⑤野洲川・杣川合流部

④横田橋下流



④横田橋上流

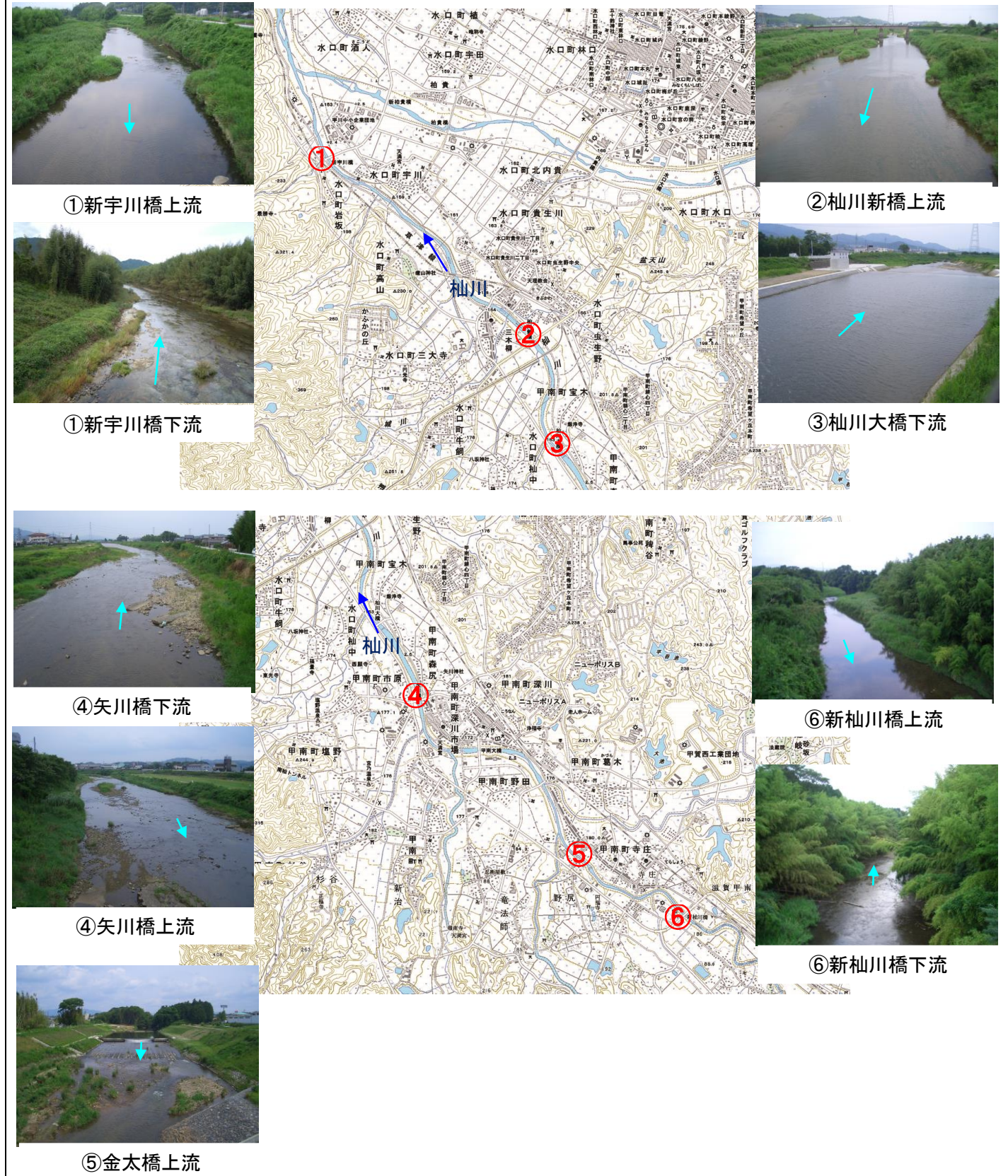


河川整備計画（本文）

杣川は、滋賀県南東部、鈴鹿山脈の南麓と信楽高原の東麓^{あぶらひだけ}油日岳に源を発し、甲賀市を南東から北西に向かって貫流し野洲川に注ぐ、流域面積 121.9km²、流路延長 21.3km の一級河川です。流域内は、杣川と並行に JR 草津線と主要地方道草津伊賀線が走り、京阪神と中京経済圏の中間に位置する立地条件により周辺の高速道路網の整備も進み、住み良い地域として注目されています。

また、特色ある地層として主に粘土砂礫層よりなる古琵琶湖層群蒲生累層・阿山累層・甲賀累層(通称「ヌリ」、「ズニンコ」、「ズリンコ」とも呼ばれる)があり、浸食の激しいところでは、これが露出しています。

出典・根拠



河川整備計画（本文）

家棟川〔湖南省〕、由良谷川は、湖南省の南部に位置する標高 605m の竜王山の山間部に源を発し、途中、同市平松地先の市道(旧東海道)および JR 草津線を横断し、湖南省を貫流して野洲川に注ぐ、流域面積 5.11km²、流路延長は家棟川〔湖南省〕で 2.65km、由良谷川で 2.6km の一級河川です。家棟川〔湖南省〕の区間が天井川でしたが、野洲川合流点から旧東海道上流付近までは河川改修により平地河川化されています。また、由良谷川も天井川であり平常時は殆ど流水が見られない水無川でしたが、旧東海道上流付近まで河川改修により平地河川化されました。家棟川〔湖南省〕流域では、近年の目覚ましい地域開発に伴い、民間企業による宅地開発等が行われ、下流付近は市街化区域となっており、市街化が進んでいます。

落合川は、阿星山に源を発し、広野川と合流した後に、JR 草津線、主要地方道草津伊賀線（旧国道 1 号）と交差し、野洲川に注ぐ、流域面積 8.71 km²、流路延長約 4.5 km の一級河川であり、下流部は典型的な天井川となっています。

出典・根拠



河川整備計画（本文）

家棟川〔野洲市〕は、野洲市辻町南方の希望が丘文化公園内の花崗岩山地に源を発し、途中、国道 8 号、JR 東海道新幹線、JR 琵琶湖線と交差し、童子川が合流して琵琶湖に注ぐ、流域面積 35.90km²、流路延長 9.3km の一級河川です。上流部は国道 8 号が下をくぐる天井川でしたが、平成 19 年度に砂防事業で切り下げ工事が完了しました。

出典・根拠

②家棟川（野洲市）下流

③JR 東海道線下流

③JR 東海道線上流

① 童子川橋下流

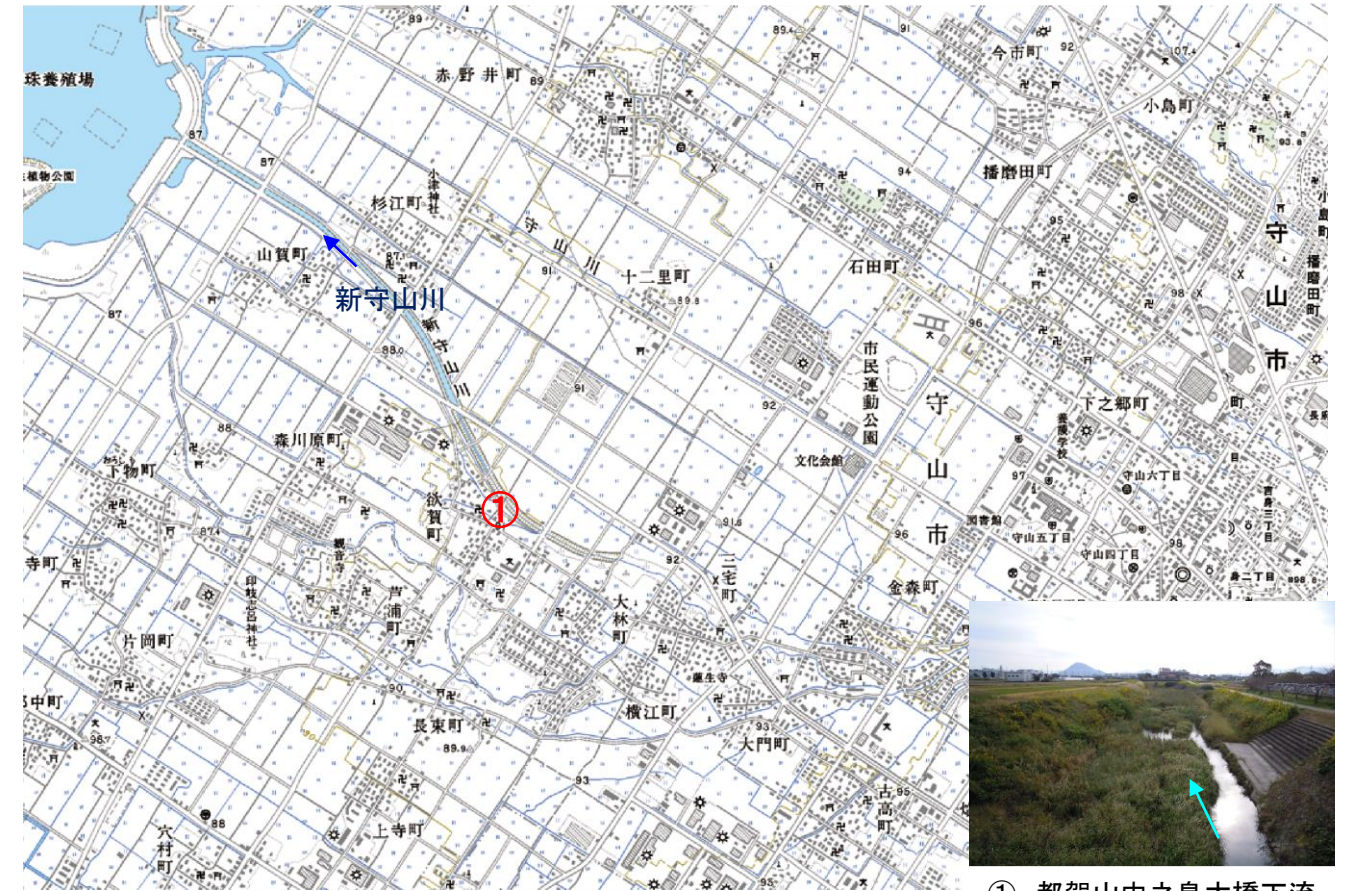
④中山道下流

④中山道上流

河川整備計画（本文）

山賀川(新守山川)は、守山川、金森川、山賀川、堺川の上流域の排水を受け持つため、新しく作られた河川で、流域面積 9.32km²、流路延長 4.8 kmの一級河川であり、上流域の大部分が市街化区域である流路延長の短い典型的な都市河川となっています。

出典・根拠

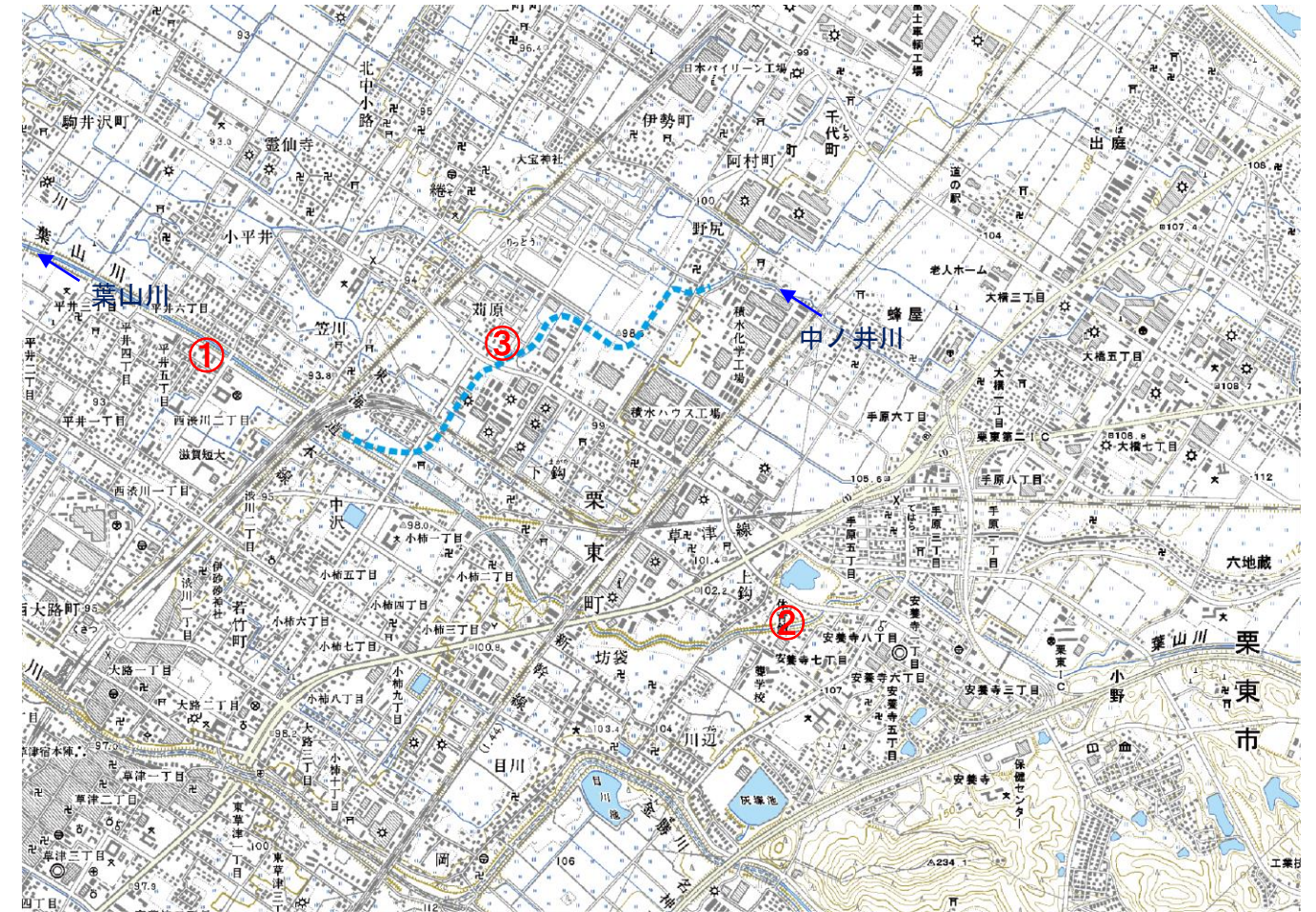


① 都賀山中之島大橋下流

河川整備計画（本文）

葉山川は、野洲川と草津川に挟まれた栗東市の丘陵地に源を発し、途中、伊佐々川放水路、中ノ井川が合流して琵琶湖に注ぐ、流域面積 22.03km²、流路延長 11.6km の一級河川であり、上流部は典型的な天井川となっています。

出典・根拠



① 草津東高校付近上流



② 新上鈎橋下流



③ 下鈎橋上流

河川整備計画（本文）

草津川は、大津市上田上桐生地先を源とし、途中、美濃郷川、金勝川が合流して琵琶湖に注ぐ、流域面積 48.3km²、流路延長 11.3km の一級河川であり、金勝川合流点より上流は典型的な天井川となっています。

出典・根拠



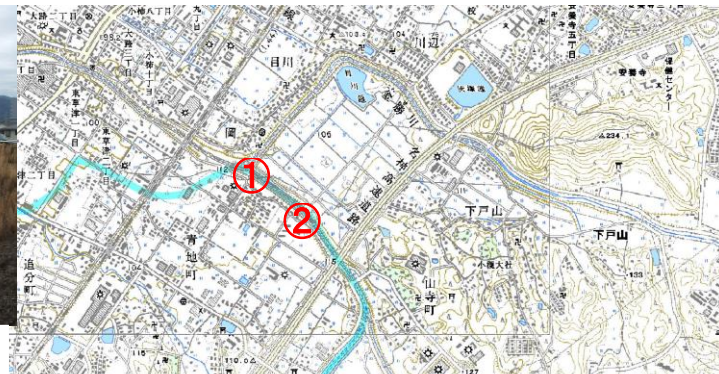
①金勝川合流上流



②名神高速道路を望む



②草津川下流左岸堤内地を望む



③草津川下流を望む



河川整備計画（本文）

金勝川は、栗東市、湖南市、甲賀市に位置する阿星山に源を発し、途中、細川、雨丸川、山田川が合流し、名神高速道路を横断して草津川に注ぐ、流域面積 20.93km²、流路延長 10.4km の一級河川であり、典型的な天井川となっています。

出典・根拠



①高橋上流



②灰塚橋下流

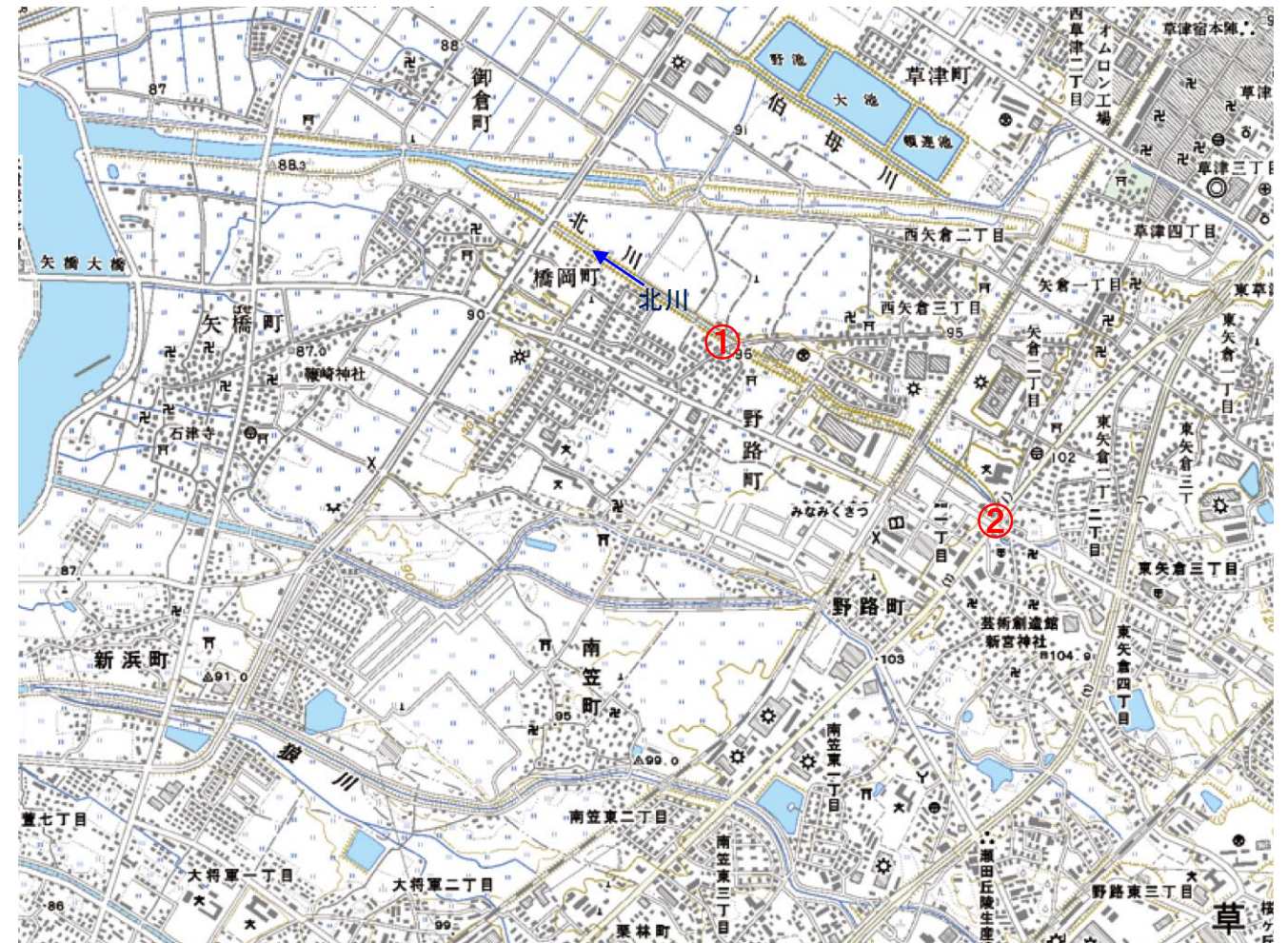


①高橋下流

河川整備計画（本文）

北川は、草津市野路町の名神高速道路付近に源を発し、途中、JR 東海道新幹線、国道 1 号、JR 琵琶湖線を横断して草津川に注ぐ、流域面積 3.03km²、流路延長 2.2km の一級河川であり、草津市南部の市街地を流下する都市河川となっています。JR 南草津駅や私立大学が新設され急速に都市化が進み、流域内はほとんどが宅地や工場用地となっており、一部に水田や原野がある程度です。

出典・根拠



② 川ノ下橋下流

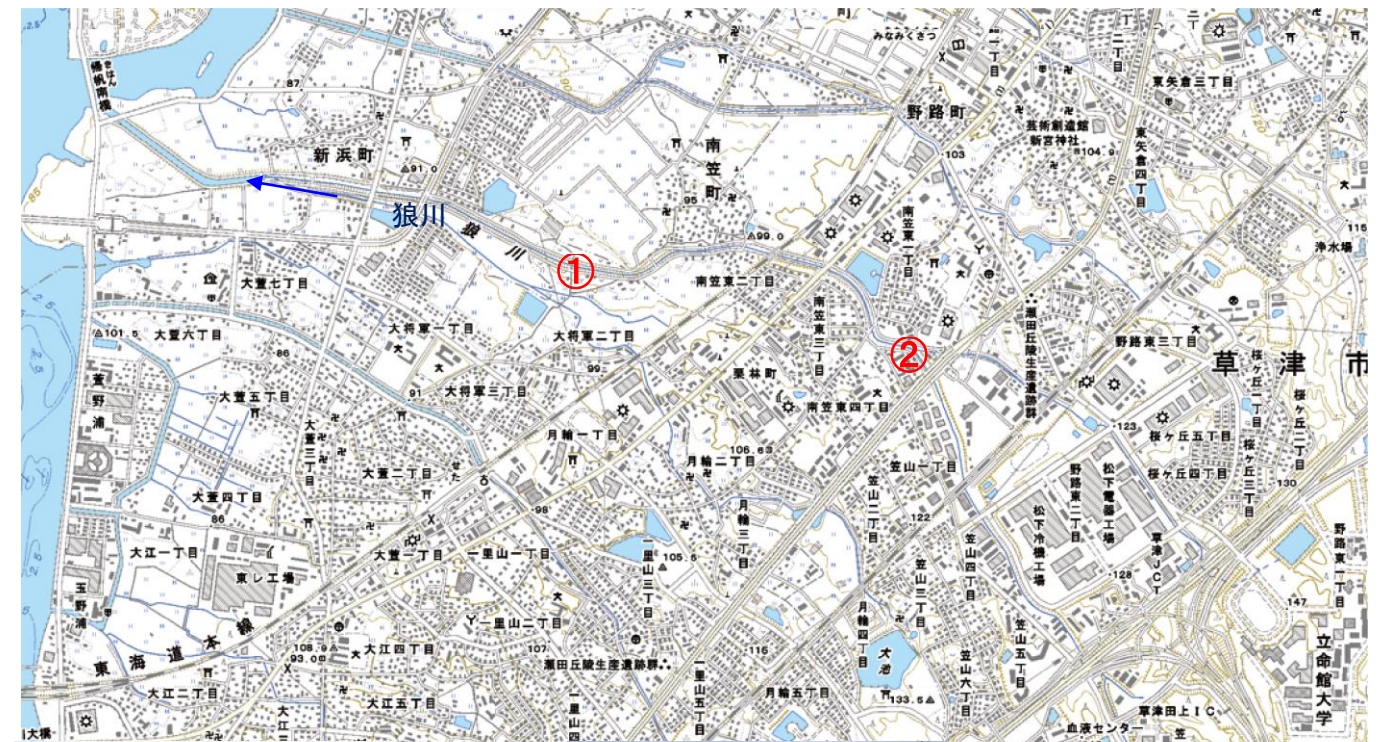


① 下北池1号橋下流

河川整備計画（本文）

狼川は、草津市と大津市の境に位置する牟礼山(標高 221.3m)に源を発し、途中、倍坂川、養老川が合流し、名神高速道路、JR 東海道新幹線、国道 1 号、JR 琵琶湖線を横断して琵琶湖に注ぐ、流域面積 5.76km²、流路延長 5.6km の一級河川であり、JR 琵琶湖線から国道 1 号付近までは典型的な天井川となっています。流域内では、水田が埋め立てられ、大規模な宅地、工場、大学および社会福祉施設や医療施設が建設される等、急激な市街化が進行しています。

出典・根拠



① ひろの1号橋上流



② 旧東海道交差点下流



② 旧東海道交差点上流

河川整備計画（本文）

（過去の主要な洪水概要）

圏域において過去に大きな被害を及ぼした主な洪水は、明治以降では、明治29年9月の台風、昭和9年9月の室戸台風、昭和28年9月の台風13号、昭和34年9月の伊勢湾台風、昭和36年9月の第2室戸台風、昭和40年9月の台風24号、昭和47年7月の台風23号、昭和57年8月の台風10号、近年では平成2年9月の台風19号、平成25年9月の台風18号等により発生したものが挙げられます。

圏域の河川の多くが天井川であることから、氾濫した場合にその被害は甚大なものとなります。

特に野洲川放水路完成（昭和54年）以前の野洲川の下流部では、昭和28年9月の台風13号により、住家683戸、非住家1,030戸が流失あるいは半壊、田畑の流失・埋没523ha、冠水300haの被害が発生しました。また、昭和40年9月の台風24号により、家屋の全半壊411戸、浸水家屋が522戸、田畑の埋没約23haの被害が発生しました。

野洲川中流部・上流部では、野洲川本川での洪水記録は少ないものの、支川の杣川、家棟川〔湖南省〕、由良谷川、落合川等ではたびたび洪水被害が発生しています。

杣川では、昭和28年9月の台風13号により、甲賀市土山町において24時間雨量で209.6mm、時間雨量で44.5mmという大雨が降り、家屋全壊22戸、半壊93戸、流失8戸、床下浸水3,619戸、床上浸水979戸の被害が発生しました。また、昭和40年9月の台風24号により、甲賀市土山町において24時間雨量で255mm、時間雨量で75mmという大雨が降り、床下浸水191戸、床上浸水94戸、農地浸水約125ha、橋梁が6箇所流失する被害が発生しました。近年では、平成25年9月の台風18号により、信楽高原鉄道杣川橋梁が流失する被害が発生しました。

家棟川〔湖南省〕では、昭和40年9月の台風24号接近と秋雨前線豪雨による河川の増水とが重なり、農地浸水320ha、床下浸水70戸、床上浸水30戸等の被害が発生しました。また、昭和46年8月の台風23号により、農地浸水280ha、床下浸水80戸、床上浸水40戸等の被害が発生しました。

落合川では、昭和38年6月の梅雨前線による豪雨により、床下浸水5戸の被害が発生しました。また、平成25年9月の台風18号により堤防の一部が崩壊し、近隣に土砂流出と流水による冠水被害が発生しました。

家棟川〔野洲市〕では、昭和55年7月の梅雨前線による豪雨により、支川の新川、大堀川、東込田川、童子川で、床下浸水9戸の被害が発生しました。それ以降でも、昭和58年、61年、62年、63年、平成6年に、家棟川〔野洲市〕をはじめとして童子川、中ノ池川、新川で被害が発生しました。また、平成25年9月の台風18号に伴う豪雨により農地浸水40ha、床下浸水27戸等の被害が発生しました。

山賀川(新守山川)流域では、昭和34年9月の伊勢湾台風により、床下浸水3,300戸、床上浸水1,800戸の被害が発生しました。また、平成11年6月の梅雨前線により、3.0haの浸水、床下浸水11戸の被害が発生しました。

葉山川では、昭和36年6月の梅雨前線による豪雨により、草津市で床下浸水361戸、床上浸水14戸等の被害が発生しました。また、昭和57年8月の台風10号により栗東市中沢地先の左岸堤防が決壊し、床下浸水153戸、床上浸水49戸等の被害が発生しました。

中ノ井川では、昭和36年6月の梅雨前線による豪雨により、草津市で床下浸水96戸、床上浸水3戸等の被害が発生しました。近年では、平成20年8月の大雨により栗東市で床下浸水27戸、平成25年9月の台風18号により栗東市蜂屋で床上浸水1戸、床下浸水40戸の被害が発生しました。

草津川では、昭和28年9月の台風13号により、堤防が決壊し、家屋全壊3戸、半壊43戸、床上浸水641戸、床下浸水2,741戸の被害が発生しました。また、昭和43年7月の豪雨により、草津市で床上浸水25戸、床下浸水825戸の被害が発生しました。

金勝川では、昭和28年の洪水により下流の屈曲部が破堤し、多大な被害が発生しました。近年でも、平成25年9月の台風18号により目川池下流で堤防が決壊し、家屋全壊1戸、半壊2戸、床下浸水6戸の被害が発生しました。

北川では、平成9年8月の豪雨により、床下浸水17戸等の被害が発生しました。

狼川では、平成2年9月の台風19号による豪雨で、家屋や農地の浸水被害が発生しました。また、平成17年7月の豪雨により家屋に浸水被害が発生し、平成25年9月の台風18号により左右岸約71mの護岸が被災しました。

出典・根拠

圏域の既往洪水被害

既往洪水の特性				河川名	被害状況	
洪水概要		洪水の降雨特性			床下浸水(戸)	床上浸水(戸)
発生年月日	発生要因	時間雨量/発生時間 mm/hr	24hr雨量/発生日 mm/hr			
天保7年	-	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
S16. 6. 25~6. 29	梅雨前線	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
S17. 6. 18~6. 19	梅雨前線	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
S28	-	-	-	金勝川	-	-
S28. 09. 25	台風13号	44. 5/09. 25. 18	209. 6/09. 24	杣川	3,619	979
S34. 09. 26	伊勢湾台風	36. 0/09. 26. 19	254. 4/09. 25	杣川	677	78
		-	-	守山川	1,800	3,000
S36. 06	梅雨前線豪雨	-	-	杣川	361	14
S36. 06	梅雨前線豪雨	-	-	葉山川	361	14
		-	-	中ノ井川	96	3
S36. 09. 16	第二室戸台風	14. 0/09. 15. 17	137. 0/09. 15	葉山川	-	-
S38. 06. 06	梅雨前線豪雨	17. 0/06. 06. 10	72. 0/06. 06	落合川	5	-
S40. 09. 17	台風24号	51. 0/09. 17. 20	215. 0/09. 16	思川	17	168
		75. 0/09. 17. 20	255. 0/09. 16	杣川	191	94
		28. 0/09. 17. 20	126. 0/09. 16	新田川	3	16
S40. 09. 17	台風23, 24号	51. 0/09. 17. 20	215. 0/09. 16	泉川	-	-
		28. 0/09. 17. 20	126. 0/09. 16	家棟川〔湖南省〕	70	30
		49. 0/09. 17. 21	196. 0/09. 17	山川	-	-
S40. 09. 17	台風24号	75. 0/09. 17. 20	255. 0/09. 16	大目川	38	10
S41. 7. 1~7. 8	集中豪雨	-	-	中ノ井川	-	-
S43. 08. 25	台風10号	36. 0/08. 26. 03	129. 0/08. 25	宮川	142	1
S44. 6. 20~7. 14	梅雨前線	-	-	中ノ井川	4	-
S44. 8. 1~8. 2	大雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	25	-
S46. 7. 22~7. 27	大雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	1	-
S46. 08. 30	台風23号	37. 0/08. 30. 19	175. 0/08. 30	泉川	-	-
		28. 0/08. 30. 19	162. 0/08. 30	家棟川〔湖南省〕	80	40
		37. 0/08. 30. 19	175. 0/08. 30	山川	-	-
S46. 08. 30	台風23, 24, 25号	26. 0/08. 30. 20	122. 0/08. 30	落合川	-	-
		26. 0/08. 30. 20	122. 0/08. 30	思川	-	-
	秋雨前線豪雨	61. 0/08. 30. 19	219. 0/08. 30	杣川	23	-
S47. 07. 11	台風23号	31. 0/07. 11. 07	198. 0/07. 11	大目川	14	4
		24. 0/07. 14. 00	109. 0/07. 10	思川	23	155
S47. 07. 09	台風23号	27. 0/07. 10. 22	115. 0/07. 10	新田川	2	14
S53. 6. 22~6. 23	停滞前線豪雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
S55. 07	梅雨前線豪雨	-	-	新川他	9	-
S55. 8. 26~8. 27	豪雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	1	-
S57. 7. 5~8. 3	台風10号	-	-	中ノ井川	1	-
S57. 08	台風10号	-	-	葉山川	153	49
S57. 8. 1~8. 2	台風10号	-	-	家棟川〔野洲市〕	1	-
S58. 9. 27~9. 28	台風10号	-	-	家棟川〔野洲市〕	8	-
S61. 6. 28~6. 30	梅雨前線豪雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
S61. 06. 15	梅雨前線豪雨	20. 5/07. 10. 09	103. 0/07. 09	宮川	3	-
S62. 7. 11~8. 8	台風5号	-	-	中ノ井川	2	-
S62. 7. 14	梅雨前線豪雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
S63. 6. 7~7. 29	豪雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
H02. 09. 11	台風19号	20. 0/09. 19. 21	178. 0/09. 16	杣川	-	-
		-	-	狼川	2	-
H05. 06. 29	梅雨前線豪雨	09. 0/06. 30. 02	66. 0/06. 29	野洲川	2	-
H06. 09. 27	台風26号	28. 0/09. 29. 21	151. 0/09. 29	杣川	-	-
H6. 9. 14~9. 19	大雨	-	-	家棟川〔野洲市〕	-	-
H9	-	-	-	北川	(17)	-
H9. 7. 2~7. 18	梅雨前線	-	-	中ノ井川	8	-
H9. 8. 3~8. 13	台風11号	-	-	中ノ井川	20	-
H11. 6. 22~7. 4	梅雨前線豪雨	-	-	中ノ井川	15	2
H13. 6. 18~6. 30	梅雨前線豪雨	-	-	中ノ井川	1	-
H20. 6. 20	梅雨前線豪雨	-	-	中ノ井川	27	-
H25. 9. 15 ~9. 16	台風18号	-	-	家棟川〔野洲市〕	27	-
		-	-	中ノ井川	40	1
		-	-	金勝川	6	-

出典：河川カルテ（水口土木事務所）他



杣川・金太橋流出
(昭和28年9月25日洪水)



杣川・旧貴生川病院前
(昭和34年8月14日台風7号)



守山川・金森町
(平成11年6月26日洪水)



金勝川
(昭和28年洪水)



杣川・信楽高原鐵道杣川橋梁流失
(平成25年9月洪水)



金勝川 栗東市目川
(平成25年9月洪水)

西暦	年号	気象状況	被害状況
1538	天文7年		3月28日、野洲川堤防決壊し、戸田正午ごろ雨激しく、戸田郷、幸津河郷、津田郷の家屋九百戸が浸水流出(近年にない水害であった)
1544	天文13年		戸田堤決壊、庄屋奥野忠左エ門の娘、愛を同7月29日堤防の人柱とす。
1578	天正6年		5月12日大雨、洪水で野洲川堤防決壊(笠原墓所)辻、出庭、中、小坂等の諸村に濁水あふれ溺死多数
1653	承応2年		暴風雨で野洲川氾濫し、伊勢落の堤防決壊、伊勢落と野洲郡南桜と甲賀郡岩根にまたがる50町歩の田畑荒れ果て、3村の境界不明となる。
1802	享和2年		6月29日夜、大暴風雨あり、今浜、中野、野洲、播磨田、小島、田中、吉身、立入、出庭、守山、林決壊
1807	文化4年		5月中旬より大雨続き、江州の濁水吹きこし、同23日より洪水にて守山、草津流れ
1885	明治18年	台風	6月18日から7月7日まで20日連続日大雨、善岸堤、川田村字小川原、水保堤防、三上村堤防、市三宅村堤防決壊
1896	明治29年	台風前線性	9月6日、天神橋、列系園橋流出、9月7日今浜堤防230m、善岸堤防180m、立入堤防が決壊、又、新庄の堤防が240m決壊し、琵琶湖の洪水と重なって中州地区は一面泥海と化した。
1913	大正2年	台風	10月3日笠原堤防約180m決壊し、死者32名、流失家屋21戸、浸水田地300町などの被害を出した。
1934	昭和9年	室戸台風	9月21日、野洲川鉄橋で下り貨物列車18両中12両転覆、野洲郡死者4名、重軽傷者25名、住家全壊120戸、半壊105戸、非住家全壊366戸、半壊63戸
1953	昭和28年	台風13号	9月25日、中主町野洲川北流右岸堤防195m決壊、今浜下出鼻出設135m決壊、26日深夜、笠原井関210m決壊死者4名、重傷170名
1965	昭和40年	台風24号	9月17日、18日、今浜新田14ヶ所、延768m決壊、大川橋、新川橋流失、死者1名、又、川田地先の内堤防延98m決壊し、田畑230反埋没した。
1967	昭和42年		新川部の測量開始
1971	昭和46年		放水路の工事着手
1979	昭和54年		放水路への通水開始

野洲川河道の変遷



出典：パンフレット「野洲川」 野洲川流域・歴史散策マップ

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（治水事業の沿革）

このような洪水の被害を軽減するため、圏域の各河川において、災害復旧や災害復旧助成事業・災害関連事業により護岸の復旧や河川改修が随時行われてきました。

1.2 洪水被害と河川改修の必要性

世界的に著名な天井川である旧草津川は、草津市街地を南北に分断するように流れており、その川床は、市街地で平野より5～6m、堤防までで9～11mの高低差を持っている。このためJRや国道などの、主要な交通機関は、旧草津川を横断する手段として川床下を掘り抜いて作られ、結果的に平地にトンネルができ、旧草津川沿川には草津市の市街地が広がっている。

このような旧草津川の洪水被害は旧来から数多く発生しており、近年では特に住民の記憶に残るものとして昭和28年9月の台風13号に伴う豪雨により堤防が決壊し、その土砂の流出及び流水の被害は甚大なものであった。当地域は京阪神のベッドタウンとして開発が進み、人口が急増し資産が増大するなど水害のたびに被害額が増加していた。

このようなことから早期に旧草津川を平地化し、市街地を水害から防御する必要があり、草津川放水路事業が進められた。

草津川放水路は、旧草津川と金勝川の合流点から河口の琵琶湖に向けて新川を開削し、これに支流の伯母川と北川を合流させ、平地化を行うことで沿川の治水安全度は飛躍的に向上される。事業は、平成14年7月に暫定通水し、現在は旧草津川の廃川処理が進められている。

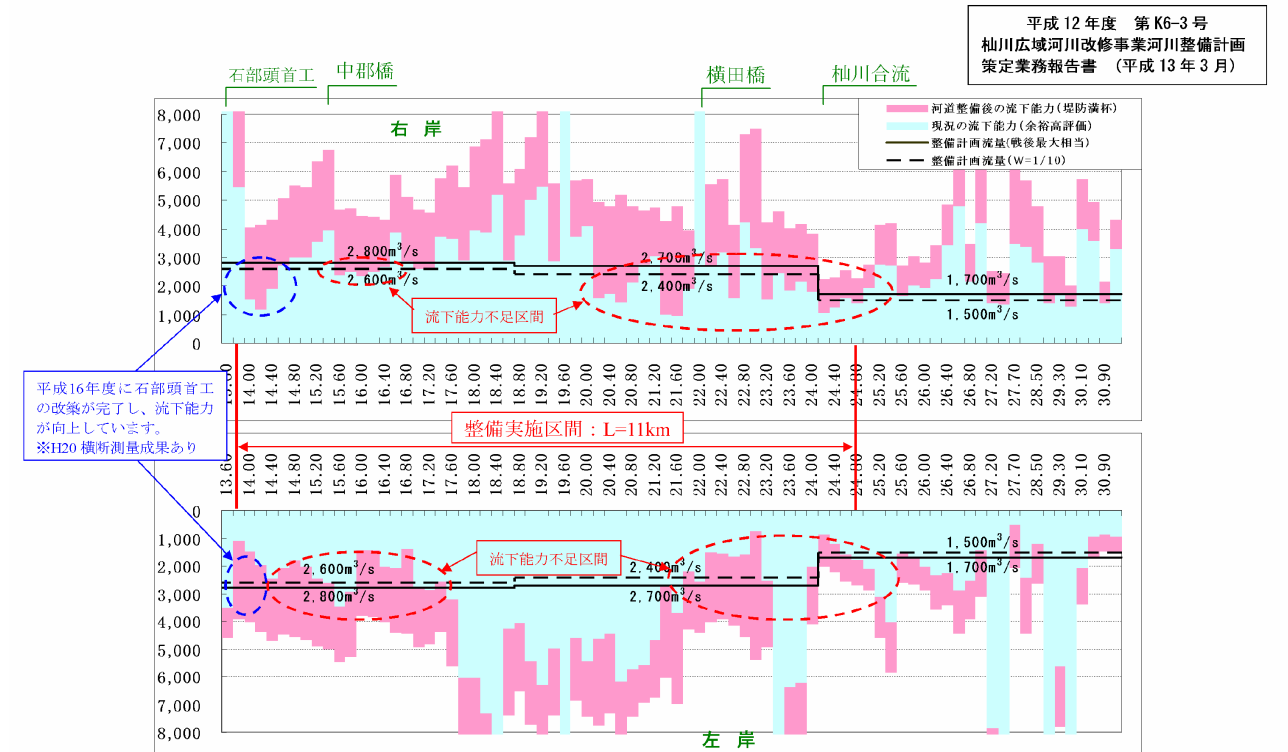
出典：平成19年度草津川放水路工事誌編纂業務 工事誌 平成20年2月

河川整備計画（本文）

野洲川について、下流部では昭和 28 年の大水害が契機となり、野洲川放水路が国直轄事業として実施されました。中流部については、災害復旧事業等により護岸の復旧を随時行ってきました。上流部については、琵琶湖総合開発事業の一環として洪水調節や水道用水・工業用水の供給等を目的とした青土ダムが昭和 63 年に完成しました。また、支川の柚川、家棟川〔湖南省〕、由良谷川では、中小河川改良事業（現広域河川改修事業）等による河川改修を行ってきました。

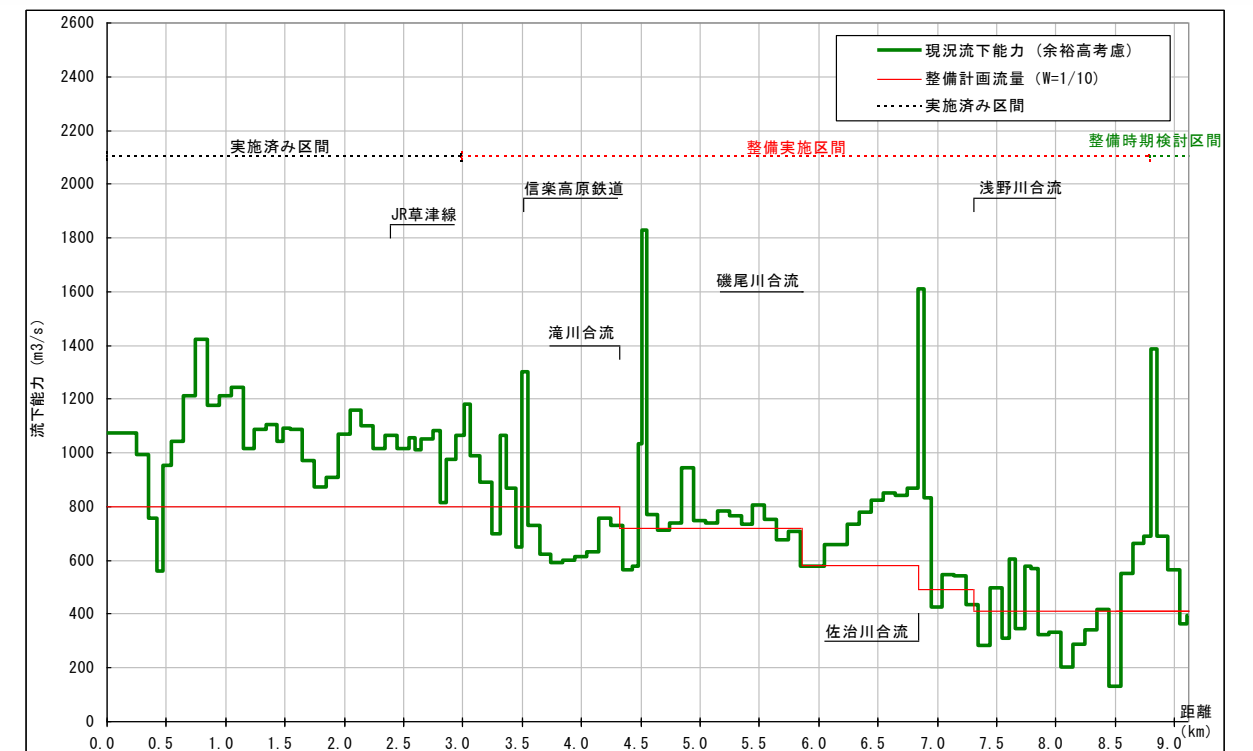
柚川の下流部（約 2km）は、昭和 40 年災害関連事業の採択を受け、さらに昭和 43 年度より柚川中小河川改良事業（現広域河川改修事業）として野洲川との合流部から 9.5km の改修に着手し現在に至っています。

出典・根拠



野洲川（指定区間）現況流下能力図

【使用した横断面】
 ◆直轄管理区間（～13.8k）：H9測量横断面
 ※H20横断測量成果あり
 ◆指定区間（14.0k～）：H9測量横断面

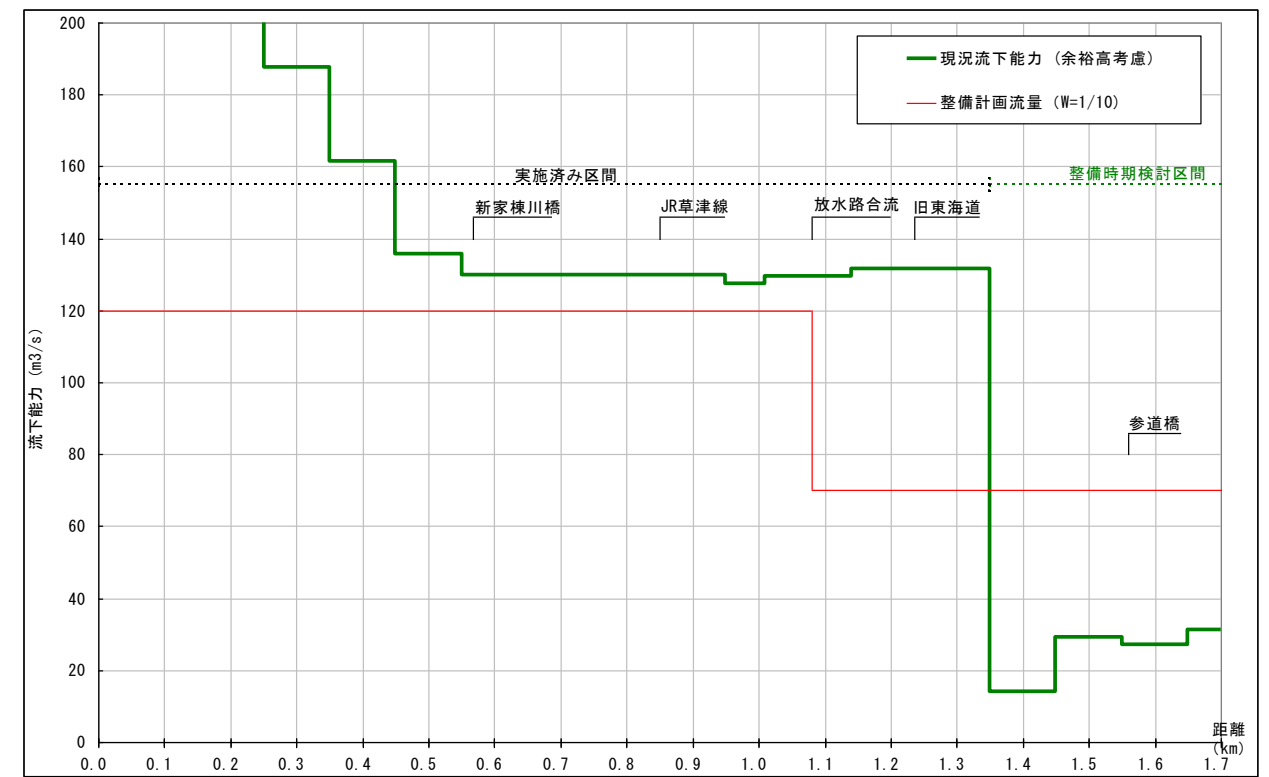


柚川現況流下能力図

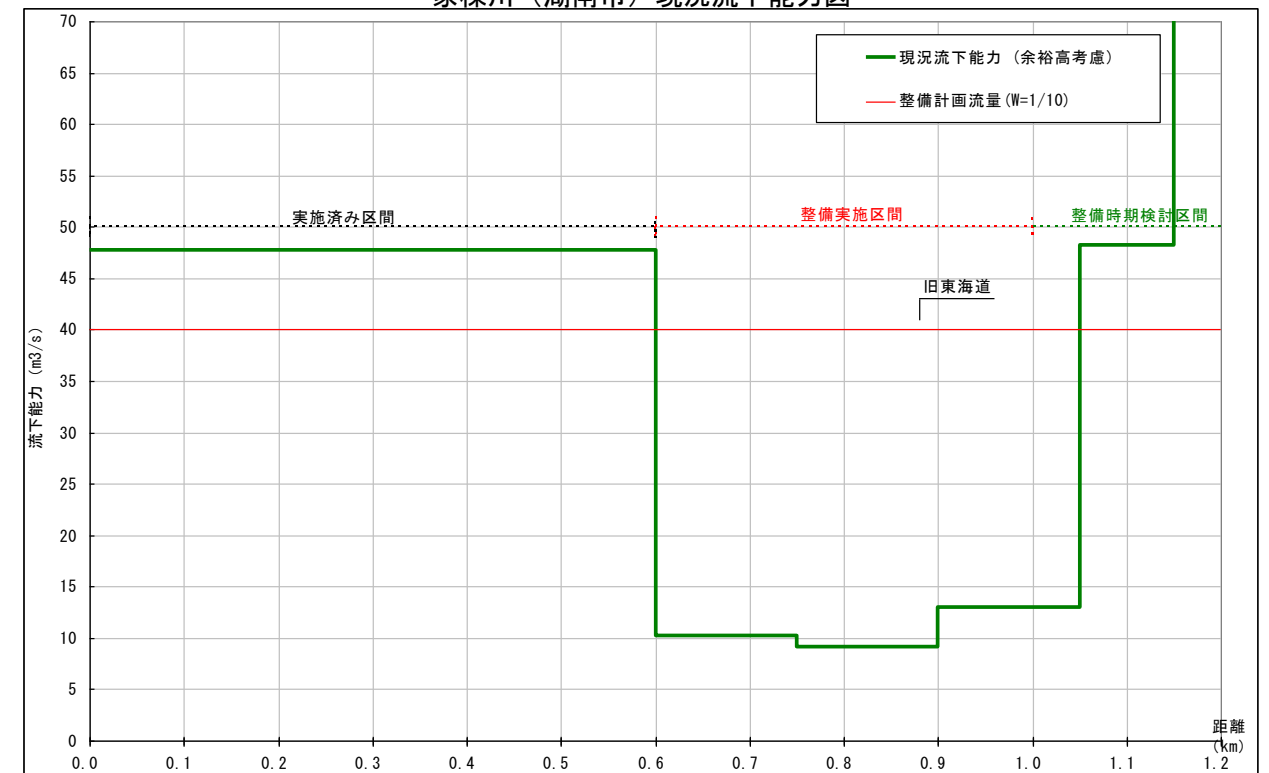
河川整備計画（本文）

家棟川〔湖南省〕、由良谷川は、昭和51年度に小規模河川改修事業として採択を受け、その後、中小河川改修事業（現広域河川改修事業）を進めてきました。由良谷川については平地化による河川改修を行い、旧東海道上流取付区間まで整備がされています。

出典・根拠



家棟川（湖南省）現況流下能力図



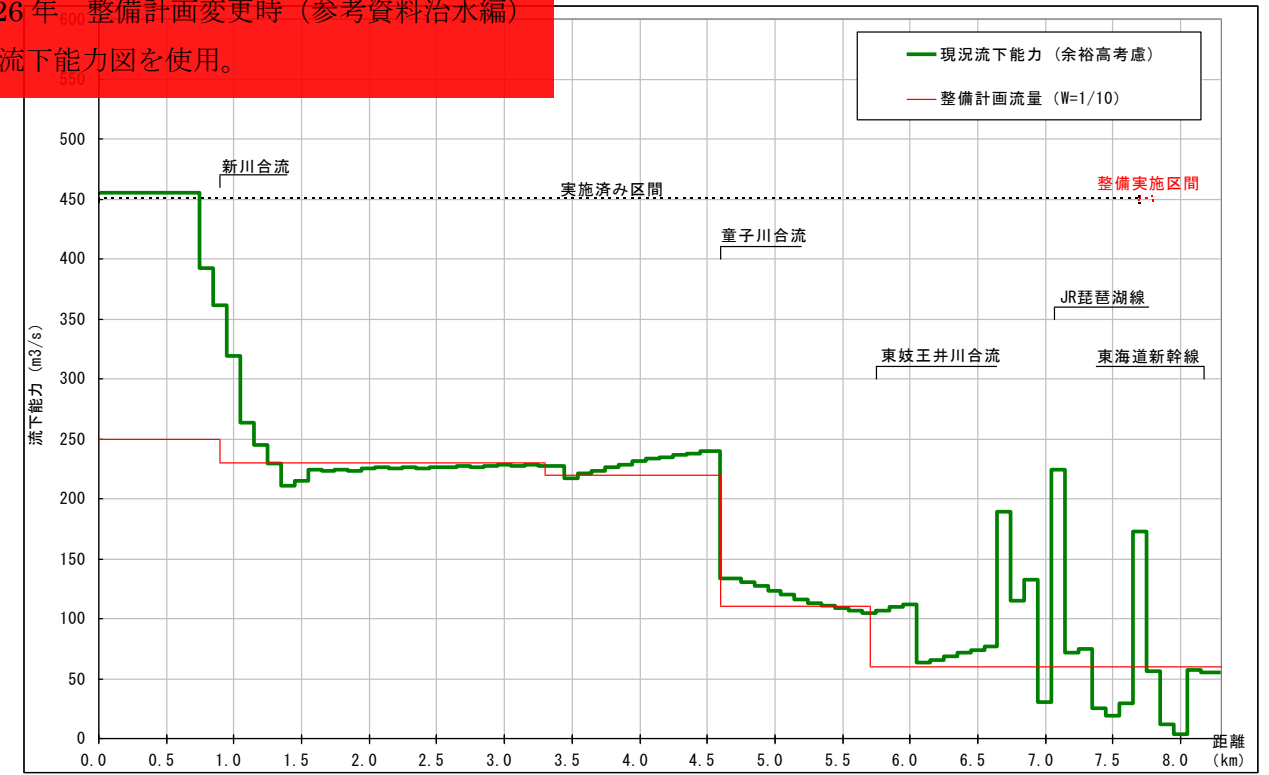
由良谷川現況流下能力図

河川整備計画（本文）

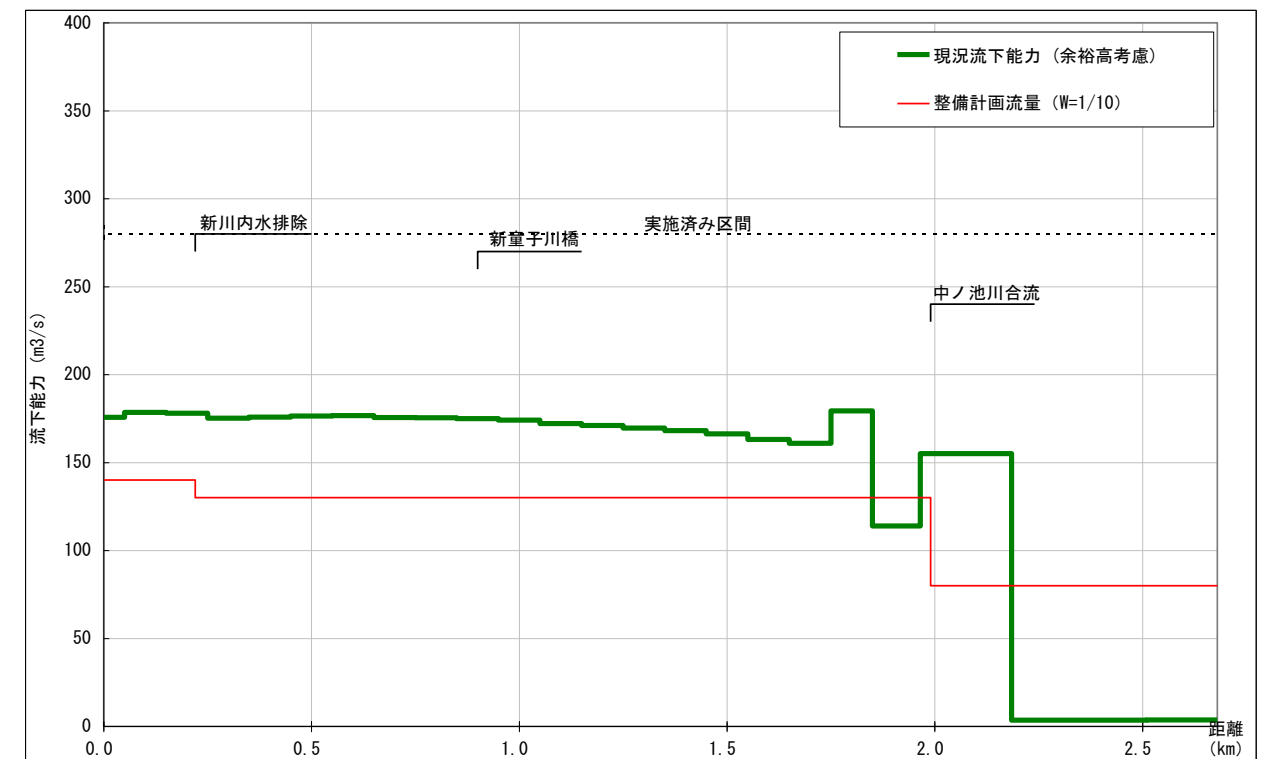
家棟川〔野洲市〕、童子川は、昭和48年度から、10年に1回発生する降雨により予想される洪水に対応できるように河川改修工事を進めています。

出典・根拠

H26年¹⁰⁰整備計画変更時（参考資料治水編）の流下能力図を使用。



家棟川（野洲市）現況流下能力図



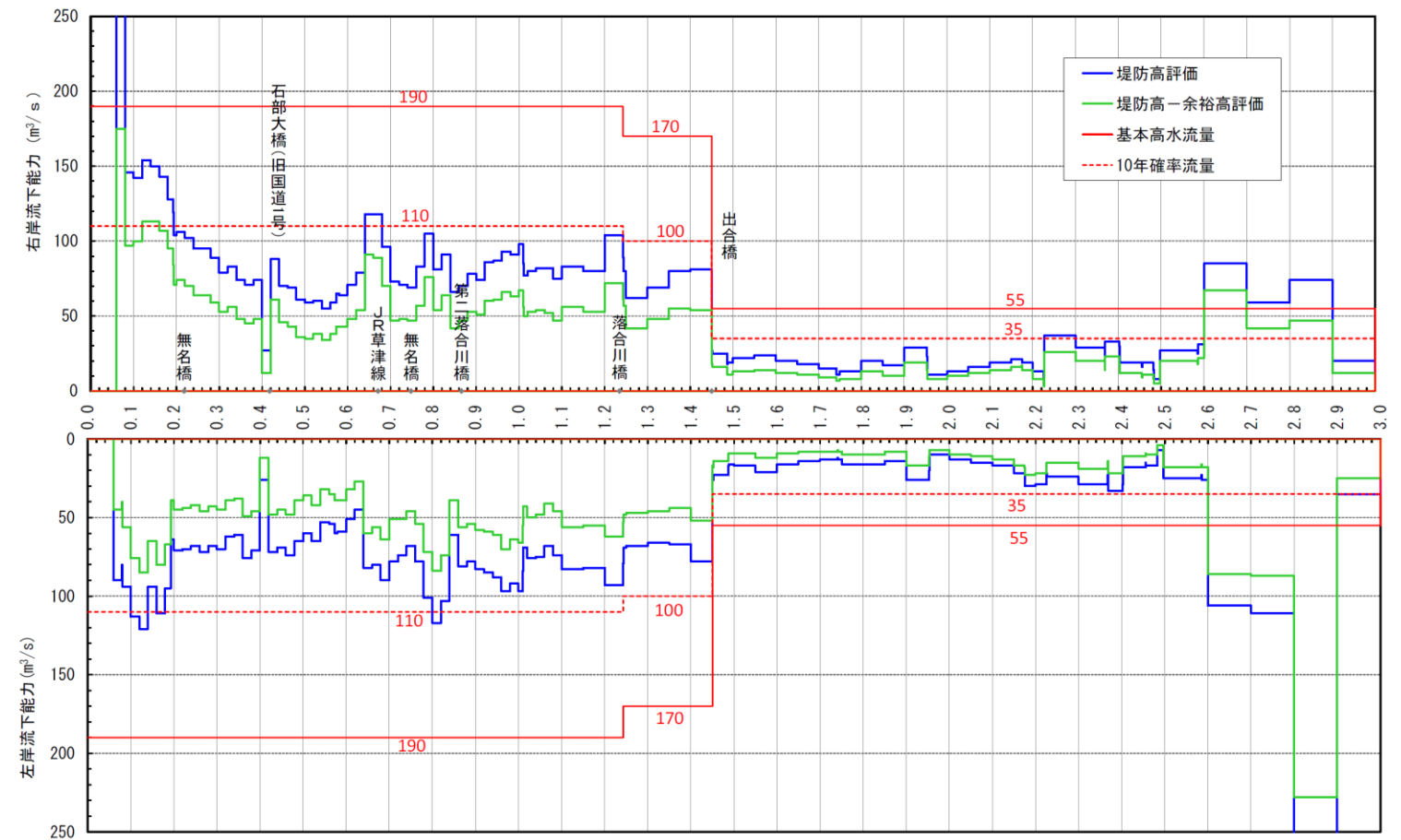
童子川現況流下能力図

河川整備計画（本文）

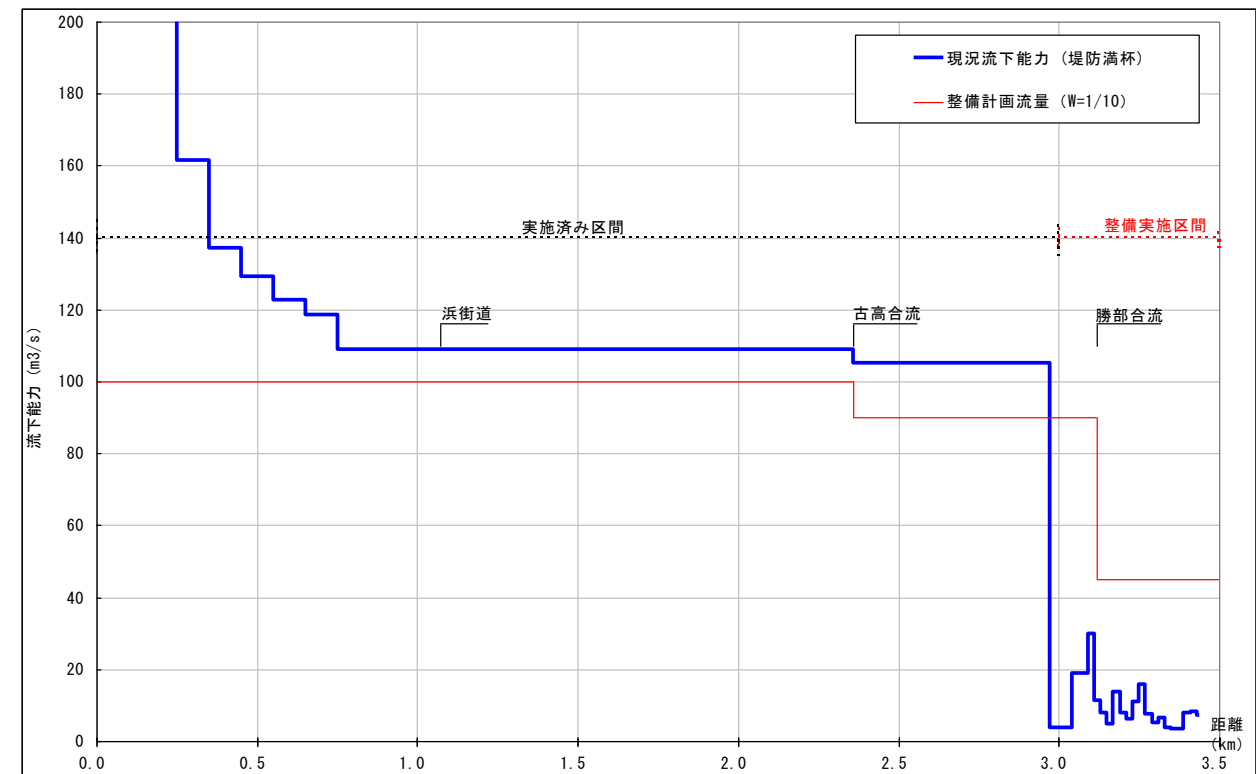
落合川は、これまで河川事業による整備は実施されていませんが、上流域支川である広野川では砂防事業によって流路工等が整備されています。

山賀川(新守山川)は、昭和 47 年度に事業着手し、昭和 59 年 3 月に全体計画の変更認可を受け、改修に着手し、10 年に 1 回発生する降雨により予想される洪水に対応できるように河川改修工事を進めています。

出典・根拠



落合川現況流下能力図



山賀川（新守山川）現況流下能力図

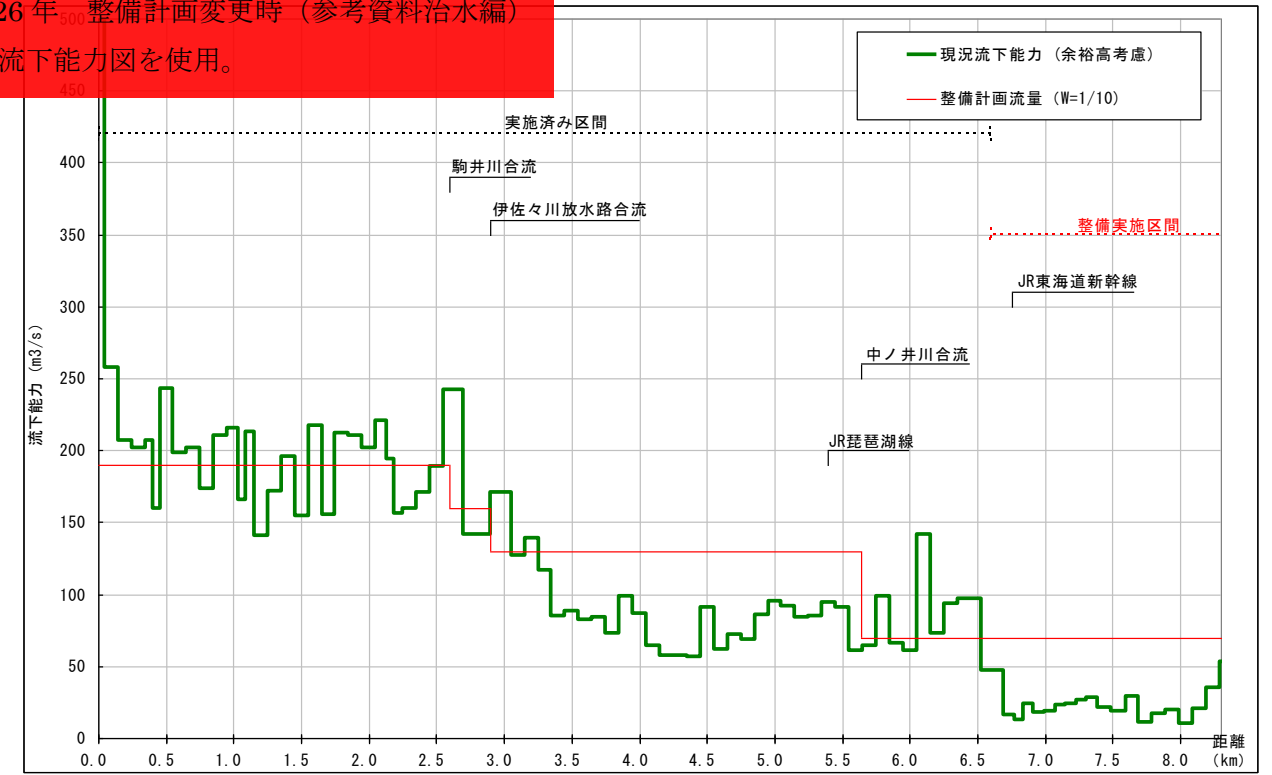
河川整備計画（本文）

葉山川は、昭和 39 年度より河口から約 7.3km の JR 東海道新幹線橋梁付近まで、10 年に 1 回発生する降雨により予想される洪水に対応できるように、掘込河道として改修が進んでいます。支川中ノ井川放水路については、下流の 1.0 km 区間が完成しています。支川中ノ井川では、放水路の建設が進められていますが、放水路完成までに相当な期間を要することから、浸水被害多発地点の上流に緊急治水対策として調整池および暫定通路を整備しました。

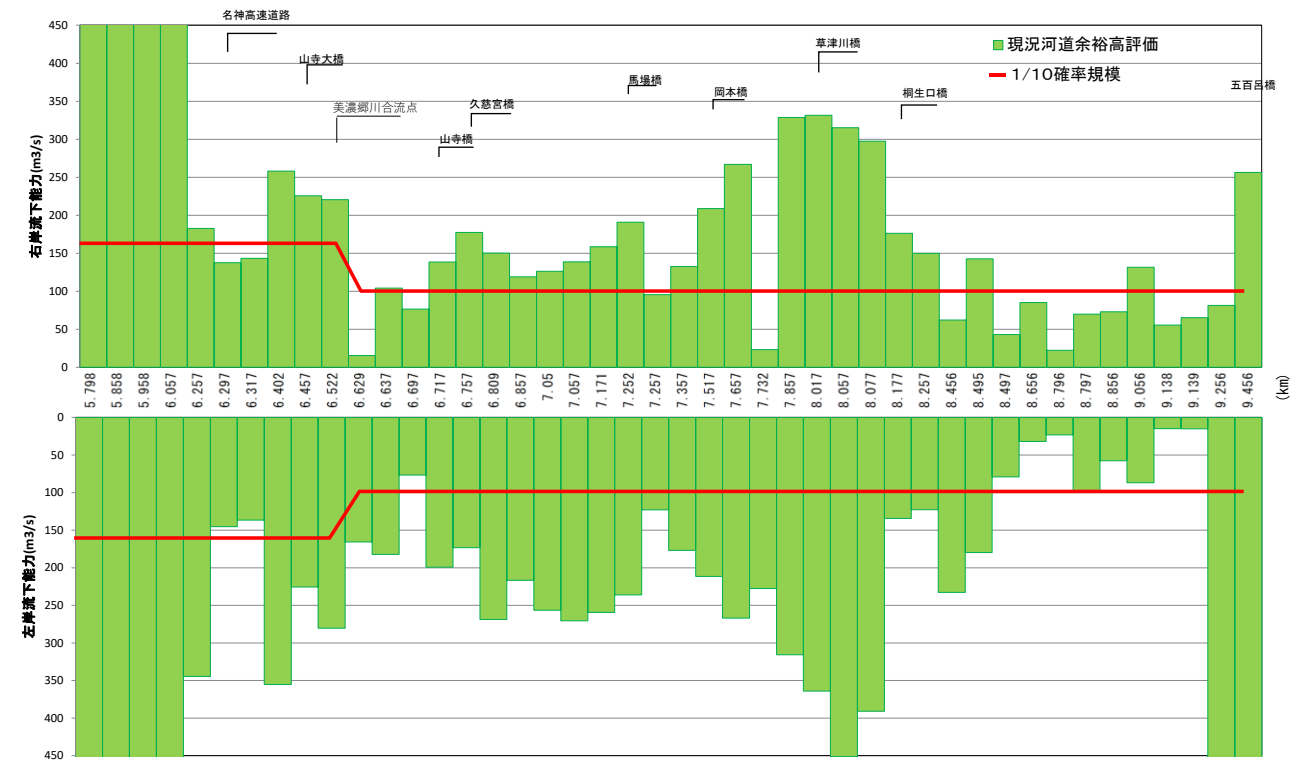
草津川の下流部は、河口より上流 1.0km 地点からは著しい天井川となっていました。昭和 46 年度から放水路による平地河川化が進められ、平成 14 年 7 月に通水し、草津川（下流部約 7.4km）は廃川となりました。

出典・根拠

H26 年 10 月整備計画変更時（参考資料治水編）の流下能力図を使用。



葉山川現況流下能力図



草津川現況流下能力図

河川整備計画（本文）

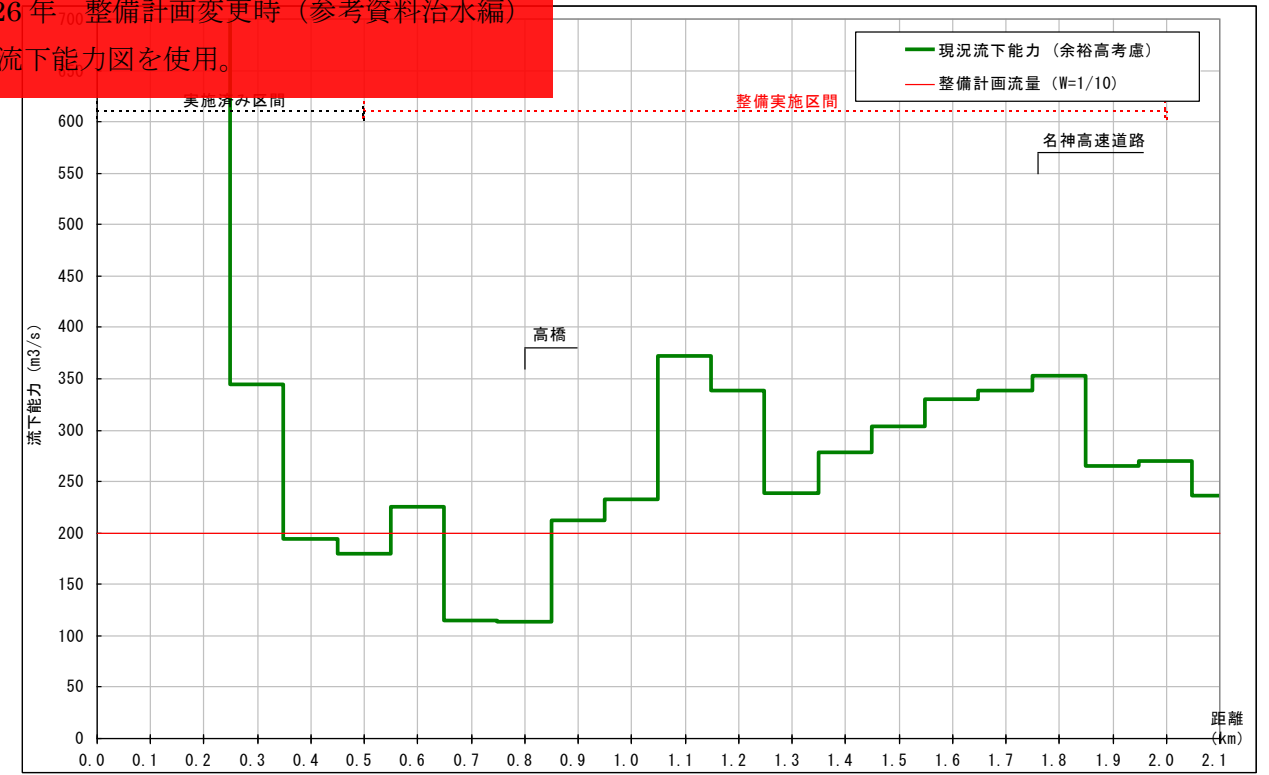
金勝川は、天井川であることから、過去に災害を受けるたびに災害復旧や災害関連事業により河川改修を実施してきました。直轄事業として実施されてきた草津川放水路が平成 14 年 7 月に通水されたことにより、金勝川の切り下げ工事を進めています。

北川は、草津川放水路の関連事業として国土交通省琵琶湖河川事務所により、10 年に 1 回発生する降雨により予想される洪水に対応できる規模での改修工事が草津川合流部から JR 琵琶湖線下流付近まで整備され、引き続き工事が進められています。

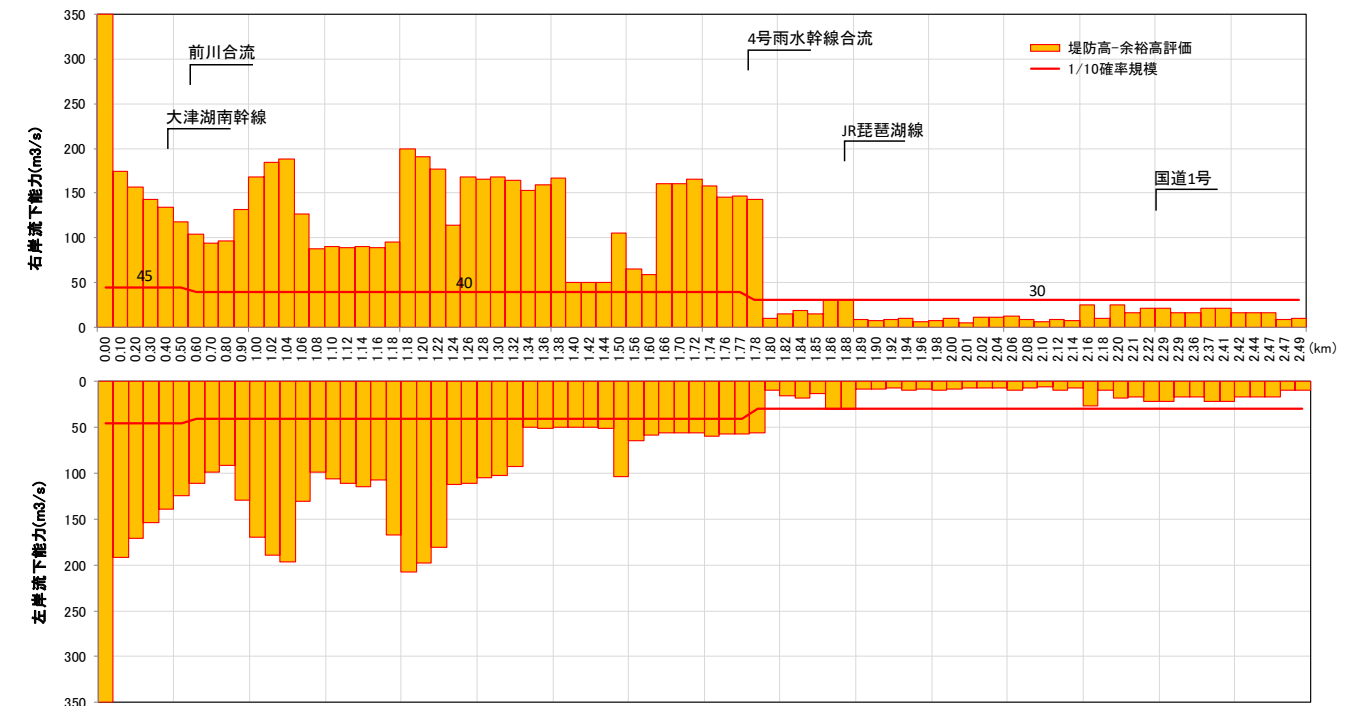
狼川は、昭和 49 年度に認可された全体計画により、10 年に 1 回発生する降雨により予想される洪水に対応できる規模での改修工事が河口から JR 琵琶湖線下流部まで完了しています。

出典・根拠

H26 年⁷⁰⁰整備計画変更時（参考資料治水編）の流下能力図を使用。



金勝川現況流下能力図



北川現況流下能力図

河川整備計画（本文）	出典・根拠
<p>（治水上の課題）</p> <p>災害復旧や計画的な改修事業を進めてきたことにより、近年では大規模な洪水被害は減少しています。しかし、圏域の市街化の進展や資産の集中が見られる等の堤内地の土地利用の変化や、地球温暖化等による集中豪雨等により、近年においても洪水被害が発生しています。</p> <p>また、従来の洪水対策においては、河川管理者による取り組みだけでなく、住民による自主的な判断や自助活動が重要な役割を担ってきました。しかし、会社勤めの水防団員にとって日中の対応が難しくなっているほか、核家族化による水害に対する知恵の伝承の断絶、さらには高齢化等の新たな問題も生まれています。特に、本圏域は他府県からの転入による人口増加が顕著であり、地域の水害の実情が十分に理解されていないため、全体として水害に備える意識が低い状況にあります。</p> <p>このように圏域の被害ポテンシャルが高まっていることから、今後とも生命の安全の確保と財産の保護が急務となっています。また、治水安全度が低く、浸水が頻発し社会経済活動に支障を来している状況にあるため、下水道（雨水）事業等関係機関とも連携を図りながら、治水安全度の向上により浸水頻度を低減させる必要があります。改修が進んでいる箇所においても、護岸の老朽化や背後地の利用状況の変化により、水衝部等で危険性が確認された箇所に対しては、個別の対応策が必要となっています。</p> <p>また、圏域の多くの河川は洪水到達時間が短く、洪水の予測等が困難であるうえ、近年、全国各地で気候変動による集中豪雨が頻発していることから、圏域内の河川の施設能力を上回る洪水（以下、超過洪水という。）が発生する可能性が増大しています。こうしたことから、県民の命を守り壊滅的な被害をできるだけ少なくするため、これまでの川の中の対策に加え、自助・共助・公助を組み合わせた川の外の対策を推進し、効果的に治水安全度を高める取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>野洲川の石部頭首工から上流部では、沿川に JR 草津線や主要地方道草津伊賀線（旧国道 1 号）等の交通機関が隣接し、人口・資産の集積が進行しています。このため、喫緊にも堆積土砂等の除去や繁茂している樹木の伐採を行うことにより流下能力を回復させているところですが、護岸整備やボトルネック箇所の河積拡大などさらなる流下能力向上策により洪水被害を軽減する必要があります。</p> <p>杣川は、野洲川合流点付近や信楽高原鐵道の上下流および千丈寺井堰より上流の区間には、人口・資産の集積が見られ、洪水時には深刻な洪水被害が発生する恐れがあるため、洪水被害を軽減する必要があります。</p> <p>落合川は平成 25 月 9 月の台風 18 号の洪水により溢水し、背後地事業所への浸水等甚大な被害が発生しています。下流部には工場や事業所等が集積し、中流域には住宅地開発等も進められていることから、浸水被害を軽減するため抜本的な河川改修を進める必要があります。</p> <p>家棟川〔湖南市〕、由良谷川、落合川、家棟川〔野洲市〕、葉山川、草津川、金勝川、狼川は、天井川を形成しており、さらに洪水到達時間が非常に短く洪水の予測が困難な河川です。一方、周辺には、人口および重要交通機関等の資産が集積する等土地利用が進んでおり、一旦、氾濫・決壊するとその被害は甚大なものが予想されます。そのため、早急に浸水頻度の低減を図るとともに、決壊による壊滅的な被害を回避する必要があります。</p> <p>童子川は河積が小さく、また上流の野洲駅周辺では市街化が進行していることから、他事業とも連携した河川改修を進める必要があります。</p> <p>山賀川（新守山川）の位置する守山市は近年交通網が発達し、京阪神地域との連絡が密となり、工場、住宅地として開発がめざましく、急速に市街化が進んでいます。しかし、守山市の南部市街地の雨水排水を受ける河川（天神川、山賀川、堺川、金森川、守山川、法竜川）であり、その河積は極度に小さく、わずかな降雨でも排水不良による浸水が各所で生じています。</p> <p>そのため、守山市の雨水排水の大部分を受け持つ山賀川（新守山川）の未改修区間の河道改修を行い、雨水幹線を接続し、守山市の浸水被害を軽減する必要があります。</p> <p>草津川は、周辺において人口・資産の集積が見られ、洪水時には深刻な洪水被害が発生する恐れがあるため、洪水被害を軽減する必要があります。</p> <p>北川の上流部は、JR 琵琶湖線や国道 1 号等の交通機関があり、更に JR 南草津駅の新設により周辺の開発が進んだ地域であるため、一度氾濫が生じた場合、その被害は甚大なものが予想されます。</p>	

河川整備計画（本文）

出典・根拠

1.2.2 利水に関する現状と課題

圏域内の河川水は、古くから主に農業用水、生活用水として多岐にわたって利用されてきました。特に、野洲川の河川水は、甲賀市の水道用水として多く利用されています。また、青土ダムにより洪水調節を行うと共に、水道用水および工業用水の利水容量を確保しています。こうした河川水の利用に加え、河川やその他の水路における環境・景観保全の面からも、引き続き適正な水管理を行っていく必要があります。

野洲川においては、下流部では河川水が伏流しやすい扇状地であり、渇水時には干害が発生し、深刻な水争いが生じることもありました。しかし、野洲川ダム、石部頭首工、水口頭首工が国営野洲川農業水利事業(昭和22年度～昭和30年度)で完成し、その後国営造成土地改良施設整備事業(昭和49年度～昭和53年度)により施設改修工事が行われ、効率的な水利用への改善が実施されてきました。さらに平成11年からは、災害を未然に防ぎ、農業生産性の維持および農業経営の安定を図る目的で、国営総合農地防災事業野洲川沿岸地区として、石部頭首工、野洲川ダムの改修が行われ、平成18年からは国営造成土地改良施設整備事業野洲川中流地区として水口頭首工の改修が行われました。

現在では、水争いが生じるような深刻な渇水被害は生じていませんが、異常気象などによる渇水が予想される場合に、野洲川ダムからの送水制限や下流での計画取水が実施されたり、利水者と連絡会議による対策の協議を行った実績があります。

杣川の中・下流部には、農業用取水堰が設置されており、高山・平田・千丈寺井堰等で取水が行われています。また、上流に位置する甲賀市甲賀町地先では、主に自然取水による取水箇所が所々で見られます。なお、杣川本川からの水道用水や工業用水の取水はありません。

家棟川〔湖南市〕、由良谷川、落合川の河川水は、農業用水として利用されています。

家棟川〔野洲市〕およびその支川童子川等の河川水は農業用水として利用されています。家棟川〔野洲市〕上流区間等では、一年のうちの大半が水無川の状態となっています。

山賀川(新守山川)は新しく作られた河川のため、利水施設はありません。しかし、整備実施区間上流端において山賀川と分流するため、山賀川の水量を確保する必要があります。

葉山川および葉山川周辺の小河川は、周囲の草津市、栗東市、守山市の耕地に対する水源として広く利用されています。

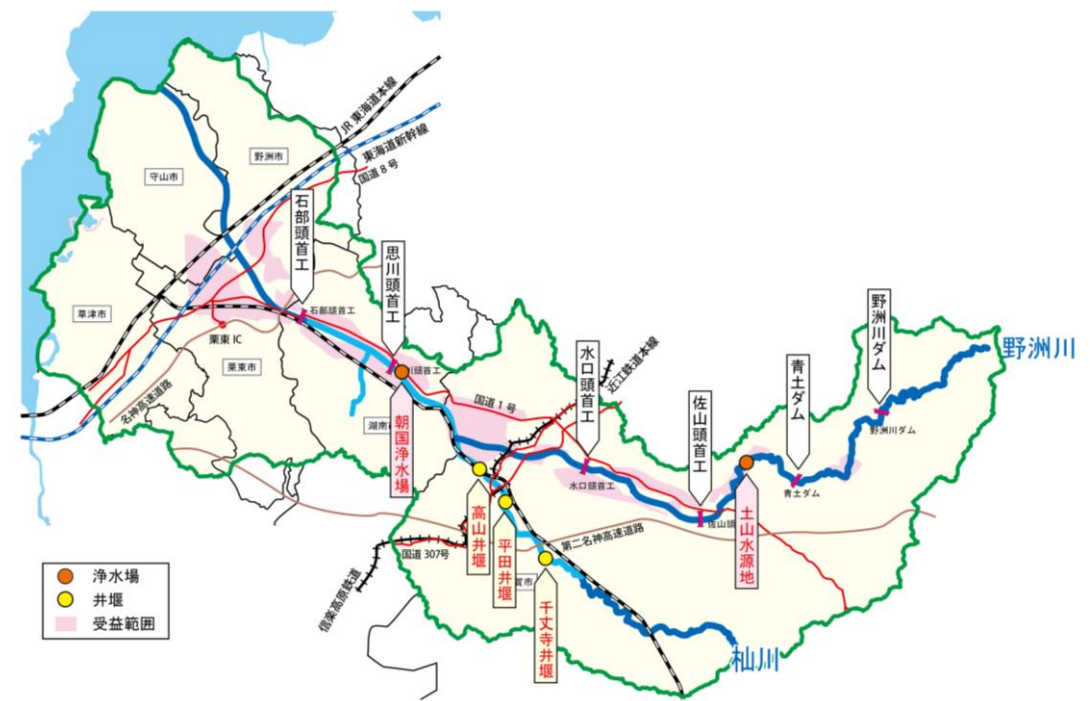
草津川は、利水施設がありません。

金勝川では、整備実施区間の名神高速道路下流部や灰塚橋下流部において取水施設が存在し、農業用水として利用されています。

北川は、利水施設はありません。

狼川では、現況で自然取水による農業用水の利用があり、今後も用水を確保する必要があります。

なお、天井川の切り下げや新川の掘削等地下水への影響が想定される河川については、地下水位への影響についての調査が必要です。



河川整備計画（本文）

1.2.1 河川環境に関する現状と課題
(1) 生物の生息、生育
(植生)

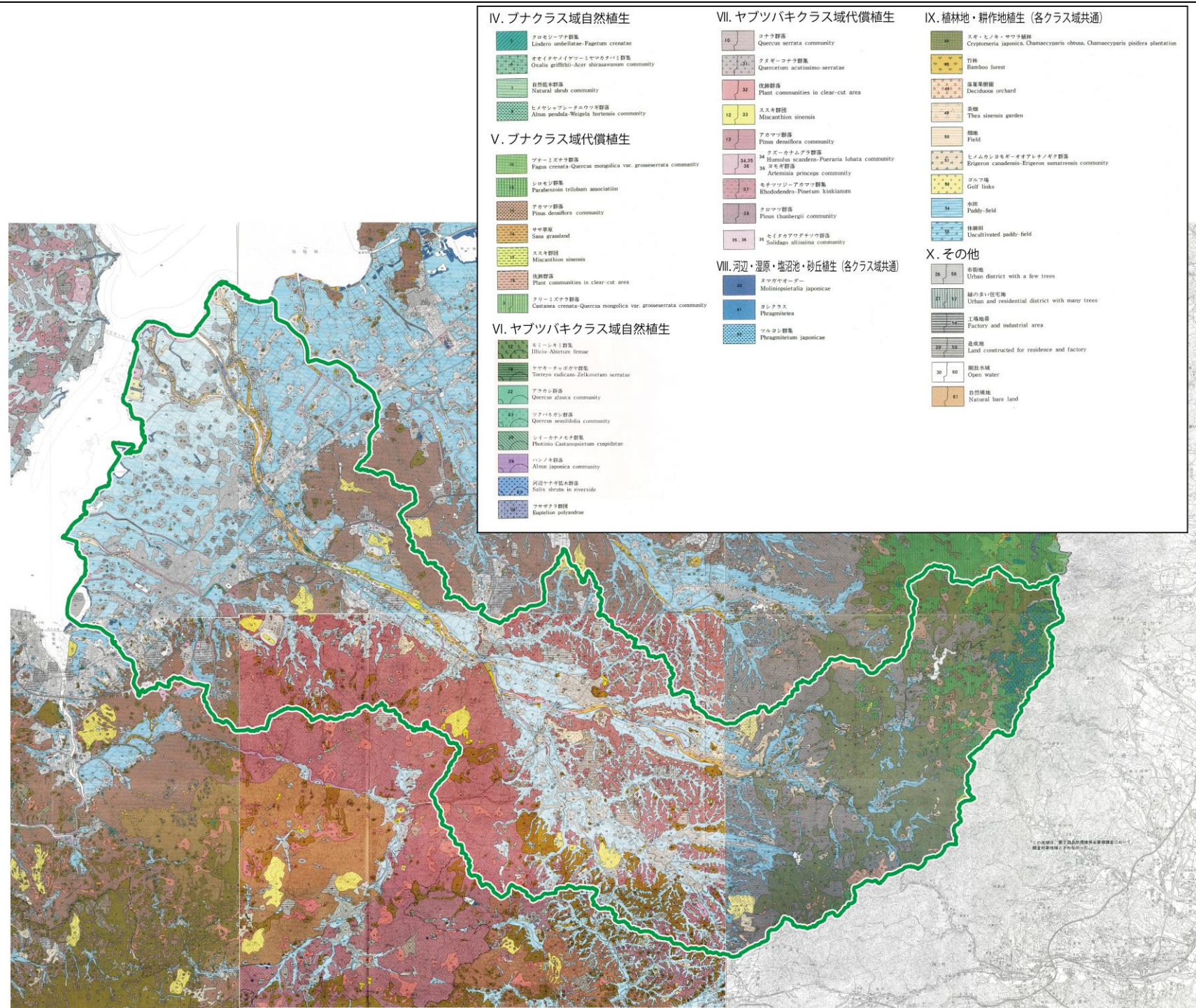
圏域の植生は、山地のほとんどがスギやヒノキ等の植林地とアカマツ等の代償植生(本来の植生ではない植生)に覆われていますが、上流域の谷沿いには広葉樹が残り、中流域ではコナラの雑木林が茂る里山が形成され、生物の多い豊かな自然も見られます。ただし、河川周辺は水田等の耕作地として利用されており、古くから人々が生活を営むために地形を改変してきたことから、自然の植生は急速に減少しつつあります。琵琶湖の水位が影響する河口部ではマコモ、ヨシ、ヒメガマ等の抽水植物やオオカナダモ(生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種)等の沈水植物が見られ、近年は特定外来生物の抽水植物オオバナミズキンバイ(生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種)やナガエツルノゲイトウ(生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種)も確認されています。

保全すべき貴重な植物としては、野洲川で水辺に生息するカワヂシャ(環境省レッドリスト：準絶滅危惧)が、杣川と野洲川の合流点付近で石礫のある乾燥した貧栄養の河原に群生するカワラハハコやタコノアシ(環境省レッドリスト：準絶滅危惧)が、杣川の中流では向陽の山麓に生育するコモチシダ(滋賀県レッドデータブック：分布上重要種)が確認されています。

河畔には、防風の役割も果たす竹林が生育し住民により手入れされてきましたが、近年手入れが行き届かず無秩序に拡大・繁茂し荒れています。河道内では、砂礫の堆積により陸域と水域に落差が生じ、水域ではツルヨシ群落等が、陸域ではハリエンジュ(生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種)群落等が繁茂し、広範囲にクズ群落が分布しています。

こうしたことから、水位の変動する不安定な環境に生育するタコノアシ(環境省レッドリスト：準絶滅危惧)のような植物が生育できるよう、自然の営力で砂州が形成される河道を形成するとともに、形成された砂州が定期的に攪乱される環境を維持する必要があります。

出典・根拠



現存植生図

出典：現存植生図（環境庁、昭和60年）

河川整備計画（本文）

（魚類）

圏域内の最大河川である野洲川は、県内においても最大、最長の河川であり、上流部は鈴鹿山脈を流れる溪流でタカハヤ、アマゴ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：要注目種）、カジカ大卵型（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：希少種）等冷水域の魚類が生息しています。中流から下流にかけては、早瀬、平瀬、淵等様々な自然環境が形成されていることから、イトモロコ（滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、アユ、ビワマス（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：要注目種）、ギギ（滋賀県レッドデータブック：絶滅危惧種）、ナマズ等多様な魚類が生息しています。また、上流域では保水力に優れた森林や雑木林に囲まれ、夏でも水が枯れることはなく、中流域までアジメドジョウ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：希少種）やアカザ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：希少種）等冷水域の魚類が見られるのも特徴の一つとなっており、野洲川とその支流を含む圏域内には、およそ 30 種類の魚類が生息する県内有数の地域になっています。

こうしたことから、現状の低水路、みお筋を極力保全し、生物の大切な生息・生育の場である瀬・淵を創出する必要がありますとともに、魚類の産卵や稚魚の安全なすみかとなる水際を保全していく必要があります。野洲川と杣川は、圏域内のほとんどの河川を結びつける根幹をなす河川となっており、川に連絡する用排水路に生息する魚類も多く見られることから、水生生物の自由な移動空間の連続性を確保する必要があります。また、河川改修にあたっては魚類の生息や河川環境に配慮する必要があります。

圏域内に生息する保全すべき貴重な魚類として、水が比較的きれいな河川の中～上流に生息するアジメドジョウ、アカザ、カジカ大卵型や中～下流域に生息するスナヤツメ南方種（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、イトモロコ、ズナガニゴイ（滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、ムギツク（滋賀県レッドデータブック：希少種）、ギギ等があげられます。また、野洲川に流入する用排水路には、ホトケドジョウ（環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠB 類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、ミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）等が確認されています。

（動物等）

野洲川流域には、水辺を利用するサギ類、チドリ類、河畔林や河原、草地を利用するホオジロ、オオヨシキリ（滋賀県レッドデータブック：希少種）、水深の浅い開放水面や人工的な水路を利用するセキレイ類等と多くの鳥類が生息しています。中には、魚類や水生昆虫等を餌とし、巣を川岸等の垂直な土壁に横穴を掘って使用するカワセミ（滋賀県レッドデータブック：希少種）のように、河川との関わりの深い種も少なくありません。

その他の動物ではアカギツネやタヌキ、ネズミ等の哺乳類、ニホンイシガメ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：希少種）やシマヘビ等の爬虫類、トノサマガエル（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：要注目種）やニホンアカガエル（滋賀県版レッドデータブック：要注目種）等の両生類や多くの昆虫類の生息が確認されています。

出典・根拠

分類	種名	環境省 レッドリスト	滋賀県 レッドデータブック
植生	カワヂシャ	準絶滅危惧	無し
	タコノアシ	準絶滅危惧	無し
	ナガエミクリ	準絶滅危惧	無し
	コモチシダ	無し	分類上重要種
魚類	スナヤツメ南方種	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危機増大種
	イトモロコ	無し	絶滅危機増大種
	ズナガニゴイ	無し	絶滅危機増大種
	ムギツク	無し	希少種
	ヤリタナゴ	準絶滅危惧	絶滅危機増大種
	アジメドジョウ	絶滅危惧Ⅱ類	希少種
	ドジョウ	無し	要注目種
	ホトケドジョウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危機増大種
	ギギ	無し	絶滅危惧種
	アカザ	絶滅危惧Ⅱ類	希少種
	アマゴ	準絶滅危惧	無し
	ビワマス	準絶滅危惧	要注目種
	ミナミメダカ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危機増大種
	カジカ大卵型	準絶滅危惧	希少種
動物等	ムササビ	無し	希少種
	チュウサギ	準絶滅危惧	希少種
	オオタカ	準絶滅危惧	希少種
	カワセミ	無し	希少種
	ヤマセミ	無し	絶滅危惧種
	チョウゲンボウ	無し	希少種
	オオヨシキリ	無し	希少種
	セッカ	無し	希少種
	オオルリ	無し	希少種
	オオサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧種
	トノサマガエル	準絶滅危惧	要注目種
	ニホンアカガエル	無し	要注目種
	マンジミ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危機増大種

【環境省レッドリストの区分】

絶滅 (EX)
 野生絶滅 (EW)
 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) ※
 絶滅危惧ⅠA類 (CR) ※
 絶滅危惧ⅠB類 (EN) ※
 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ※
 準絶滅危惧 (NT)
 情報不足 (DD)
 絶滅のおそれのある 地域個体群 (LP)
 ※絶滅のおそれのある種 (絶滅危惧種)

我が国ですでに絶滅したと考えられる種
 飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態のみ 存続している種
 絶滅の危機に瀕している種
 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 絶滅の危険が増大している種
 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
 評価するだけの情報が不足している種
 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

【滋賀県レッドデータブックの区分】

絶滅種
 絶滅危惧種 ※
 絶滅危機増大種 ※
 希少種 ※
 要注目種
 分布上重要種
 その他重要種
 ※滋賀県希少野生動物種

県内において野生で絶滅したと判断される種
 県内において絶滅の危機に瀕している種
 県内において絶滅の危険が増大している種
 県内において存続基盤が脆弱な種
 県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種
 県内において分布上重要な種
 全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種

河川整備計画（本文）

こうしたことから、鳥類の営巣場所や休息場所、魚の餌となる昆虫類のすみか、魚のすみかとなる日陰の提供等様々な機能を有する河畔林は、極力保全する必要があります。また、野洲川の野洲川ダム、青土ダム、杣川支流の櫟野ダムには特定外来生物のククチバス（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）が定着しており、河川環境における増殖と生態的被害が懸念されています。

保全すべき貴重な動物として鳥類では、野洲川流域を広く生息場所としているオオタカ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧種／滋賀県レッドデータブック：希少種）をはじめ、カワセミ（滋賀県レッドデータブック：希少種）、ヤマセミ（滋賀県レッドデータブック：絶滅危惧種）、チョウゲンボウ（滋賀県レッドデータブック：オオヨシキリ（滋賀県レッドデータブック：希少種）、オオルリ（滋賀県レッドデータブック：希少種）が確認されています。また、幼生時に溪流を利用する国指定特別天然記念物オオサンショウウオ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危惧種）の幼生が甲賀市甲南町地先（旧甲南町）で確認されています。

杣川では、植物としてタコノアシ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）やカワラハハコ、コモチシダ（滋賀県レッドデータブック：分布上重要種）が、魚類としてアカザ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：希少種）等、貴重な種が確認されています。

家棟川〔湖南市〕、由良谷川、落合川流域では、植生の大部分がモチツツジアカマツ群落です。注目種としては、ウツクシマツ群落があります。家棟川〔湖南市〕、由良谷川、落合川の流れる湖南市にはニホンノウサギ、イノシシ、ニホンアナグマ、ニホンイタチ、アカギツネ、タヌキ、ムササビ（滋賀県レッドデータブック：希少種）といった哺乳類の存在が確認されています。昆虫類に関しては、広い範囲にギンヤンマ、ヒメアカネ（滋賀県レッドデータブック：その他重要種）、ウラゴマダラシジミ、ウバタマムシが生息しています。その他に、スズムシ、カンタン、ピロウドツリアブ、ムネアカオオアリ、トラマルハナバチが生息しています。

落合川では、植物としてタコノアシ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）が、魚類としてドジョウ（滋賀県レッドデータブック：要注目種）やミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）等、貴重な種が確認されています。

家棟川〔野洲市〕、童子川では、ナガエミクリ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）、ミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、国内希少野生動植物種のチュウビ（環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠB類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）等の貴重な種も観察され、周辺の農地や山林を含めて良好な自然環境を形成し、多くの生物の生息・生育空間としても利用されています。

山賀川（新守山川）は、河川延長が短く、また河川区域も狭い上に、上流から下流までほとんど同じような河川構造であるため植物の生育基盤が単調で、植物の種数はあまり多くありません。中流域から下流域に、沈水植物では外来種のオオカナダモ（生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種）、特定外来生物のオオフサモ（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）等、抽水植物では在来種のマコモ、ヨシ、ヒメガマ等、特定外来生物のオオバナミズキンバイ（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）が群を成して見られません。木本群落はほとんどありません。

中流部および下流部には、在来の魚類はほとんど見られず、特定外来生物のオオクチバス（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）およびブルーギル（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）が多くなっています。上流部にはオイカワ、カワムツ、タモロコ、カマツカ等の在来種が比較的多く生息しています。個体数は少ないですが、一部の地点でヤリタナゴ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧種／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）が確認されています。また、底生動物の代表的な種は、チリメンカワニナ、マシジミ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、条件付特定外来生物のアメリカザリガニ（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）等です。

出典・根拠

【主要な保全すべき生物】



タコノアシ
準絶滅危惧種



カワジシャ
準絶滅危惧種



アカザ
絶滅危惧Ⅱ類／希少種



スナヤツメ
絶滅危惧Ⅱ類／絶滅危機増大種



ギギ
絶滅危惧種

写真出典：環境省 HP いきのもログ

河川整備計画（本文）

陸上生物では、哺乳類ではタヌキ、キツネ、イタチ、モグラ等を確認しており、爬虫類では中～下流域に条件付特定外来生物のアカミミガメ（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）、中～上流域にクサガメ（外来種）、上流域にニホンイシガメ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：希少種）が多く見られます。また、両生類では特定外来生物のウシガエル（生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種）が、全域に生息しています。河川を利用している鳥類は下流部ではコガモ、カルガモ等のカモ類、中流部ではコサギ、ダイサギ等のサギ類、上流部ではセキレイ類やカワセミ（滋賀県レッドデータブック：希少種）等が代表的なものです。

葉山川の上流部は、コンクリートの三面張り等単調な区間が多く魚類は確認されていませんが、平地化された下流部ではアユやオウミヨシノボリ等の両側回遊魚（川で産卵し、生まれた仔魚は海や湖で稚魚期まで過ごし、再び川に戻って成長する魚）をはじめ多くの魚類が確認されています。また、河川および沿川地域には、サギ類、カワセミ（滋賀県レッドデータブック：希少種）等の鳥類や多くの昆虫類の生息が確認されています。

草津川の下流部は、周囲が開発された市街地等であり、河川も人為的影響を大きく受けていることから、植物では堤防法面や高水敷に帰化植物が多く確認されています。魚類は、琵琶湖の影響の大きい河口部では特定外来生物のブルーギル（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）等外来魚が目立ちますが、中流部ではオイカワが優占しています。底生動物は、平瀬、淵が存在し、比較的多様な環境を有している中流部において、確認種数が多いです。上流部ではヨシやその他の植生が水際に広がっており、魚類ではカワヨシノボリ（滋賀県レッドデータブック：要注目種）、ドンコ（滋賀県レッドデータブック：その他重要種）等の魚類が確認されています。

金勝川では、ナガエミクリ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）、ミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、タヌキ、アカギツネ、チュウサギ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：希少種）、カワセミ（滋賀県レッドデータブック：希少種）等の貴重な種が確認される等自然環境に恵まれ多くの生物の生息・生育空間となっています。

北川では、ミナミメダカ（環境省版レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、モツゴ（滋賀県レッドデータブック：希少種）、チュウサギ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：希少種）、カワセミ（滋賀県レッドデータブック：希少種）、セッカ（滋賀県レッドデータブック：希少種）等の生物の生息が確認されています。

狼川では、植物については貴重な種の存在が認められないものの、ミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、ツチガエル、モンズズメバチ、ギンヤンマ等の貴重な種の存在が確認されています。

このように、野洲川をはじめ圏域内の河川では、多種多様な生物や保全すべき貴重な種が確認されており、生物の生息・生育環境が保全されるように努める必要があります。

出典・根拠



オオタカ
準絶滅危惧種／希少種



カワセミ
希少種



オオサンショウウオ
絶滅危惧Ⅱ類／絶滅危惧種



トノサマガエル
準絶滅危惧



チュウサギ
準絶滅危惧種／希少種



セッカ
希少種

写真出典：環境省 HP いきのもログ